

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
社会福祉の基礎【登校】		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テスト等を行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。 ・現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。 ・福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。 ・社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（筆記試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
(項目)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	社会福祉とは一友人を助けることとの違いは何か
2	社会福祉政策と社会福祉実践
3	社会政策とは何か：「家族」「市場」「社会サービス」と政府の調整、福祉レジームの3類型
4	社会福祉の補充性、固有性
5	福祉国家の形成①：国家による社会福祉政策の開始、民間部門の活動
6	福祉国家の形成②：ナショナル・ミニマムの提唱、ベヴァリッジ報告
7	福祉国家はどこへ行くのか：福祉国家の危機、対応
8	日本の社会福祉のあゆみ①：慈善事業から社会事業へ、戦時更生事業の時代
9	日本の社会福祉のあゆみ②：占領期の社会福祉、高度経済成長期
10	日本の社会福祉のあゆみ③：福祉制度の見直し期、福祉制度改革
11	社会福祉の対象：特定の人なのか、特定の問題なのか、社会的必要性（ニーズ）
12	社会福祉の行財政
13	社会福祉の供給体制①
14	社会福祉の供給体制②
15	社会福祉の担い手、科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

〔科目名〕 社会福祉の基礎【テキスト】	〔授業形態〕 印刷教材	選択
〔対象学科・学年・時期〕 オンライン通信科 1年または2年 通年	〔授業回数・時間数〕 2単位 90時間	
〔担当教員および実務経験〕 白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）		
〔授業の目的〕 社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。		
〔授業の方法および概要〕 到達目標をもとに、テキストを使って学習を進め、単位課題によって到達目標の修得度を測定する。		
〔授業の到達目標〕 ・社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。 ・現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。 ・福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。 ・社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。		
〔成績評価の方法と基準〕 すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
〔使用テキスト・参考文献〕 ・ 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年		
〔備考〕		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	社会福祉とは一友人を助けることとの違いは何か
2	社会福祉政策と社会福祉実践
3	社会政策とは何か：「家族」「市場」「社会サービス」と政府の調整、福祉レジームの3類型
4	社会福祉の補充性、固有性
5	福祉国家の形成①：国家による社会福祉政策の開始、民間部門の活動
6	福祉国家の形成②：ナショナル・ミニマムの提唱、ベヴァリッジ報告
7	福祉国家はどこへ行くのか：福祉国家の危機、対応
8	日本の社会福祉のあゆみ①：慈善事業から社会事業へ、戦時更生事業の時代
9	日本の社会福祉のあゆみ②：占領期の社会福祉、高度経済成長期
10	日本の社会福祉のあゆみ③：福祉制度の見直し期、福祉制度改革
11	社会福祉の対象：特定の人なのか、特定の問題なのか、社会的必要性（ニーズ）
12	社会福祉の行財政
13	社会福祉の供給体制①
14	社会福祉の供給体制②
15	社会福祉の担い手
[単位課題]	
単位課題 1	現代社会における社会福祉の位置づけ、社会福祉の補充性と固有性、福祉国家
単位課題 2	社会福祉の発展過程、社会的必要性（ニーズ）、社会福祉の行財政、社会福祉の供給体制、社会福祉の担い手

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
高齢者の福祉	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
星野 和幸		
[授業の目的]		
わが国における高齢者福祉の歴史や高齢者の生活を支える制度、高齢者の生活ニーズ、また家族の支援、介護人材、福祉機器など高齢者及び介護に関係する様々な事項を体系的に学び、介護とソーシャルワークをつなぎ、多職種連携にも役立てる。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・ 高齢者介護を取り巻く現状を説明できる ・ 介護の理念、原則、方法、過程を説明できる ・ 介護保険制度を中心とした高齢者及び介護をめぐる諸制度を説明できる ・ 介護現場におけるソーシャルワークについて説明できる ・ ケアワークとソーシャルワークの連携について説明できる		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
『最新・はじめて学ぶ社会福祉22 介護概論』 ミネルヴァ書房、2023年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	現代社会における介護ニーズの増加と専門職
2	介護の歴史的変遷
3	介護を担う人材とその国際化
4	介護の理念と専門性
5	介護の原則と方法
6	介護の過程
7	介護に関する法律と施策の動向
8	家族支援
9	福祉機器・用具と住宅改修
10	障害のある人に対する支援過程
11	高齢者に対する支援過程
12	終末期における支援過程
13	入所型福祉施設における連携と役割
14	在宅福祉施設・事業所における連携と役割
15	医療施設における連携と役割
[単位課題]	
単位課題 1	・ 高齢者介護を取り巻く現状 ・ 介護の理念、原則、方法、過程 ・ 高齢者及び介護をめぐる諸制度
単位課題 2	・ 介護現場におけるソーシャルワーク ・ ケアワークとソーシャルワークの連携

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
障がい者の福祉	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
障害の社会モデルを障害者福祉の理念や概念が生まれた過程を辿りつつ、その理念の実現を目指す日本の障がい者福祉に関わる制度・施策を学ぶ。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・ 障害の社会モデルの視点から障害者権利条約及び障害者差別解消法に規定されている合理的配慮について関係を説明できる。 ・ ノーマライゼーションの定義を説明できる。 ・ 障害者の生活支援における留意点をあげることができる。 ・ 障害者福祉の歴史的展開における基本的事項を列挙することができる。 ・ 障害者総合支援法に関わるサービスの基本的事項を覚えることができる。 ・ 障害者の生活を支える施策・制度を列挙することができる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 山下幸子・竹端寛・尾崎剛志・圓山里子『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉 第4版』ミネルヴァ書房、2024年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷授業】
1	「障害」の社会モデルと合理的配慮
2	国際生活機能分類と保健・医療・福祉の専門職
3	障害者の生活実態～障害当事者から学ぶ～
4	様々な機能障害の理解と生活支援の留意点
5	障害者福祉の理念①ノーマライゼーション
6	障害者福祉の理念②自立生活運動
7	障害者福祉の理念③エンパワメントとソーシャルワーク
8	障害者福祉の歴史的展開①：戦後の制度史
9	障害者福祉の歴史的展開②：戦後の障害者運動
10	障害者福祉の歴史的展開と障害者権利条約
11	障害者総合支援法の概要
12	障害者総合支援法の給付内容
13	障害者の生活を支える施策①：基本法、年齢・障害種別に対応した法律
14	障害者の生活を支える施策②：虐待防止法、教育、バリアフリー
15	障害者の生活を支える施策③：雇用と所得保障
[単位課題]	
単位課題 1	・ 障害の社会モデルと国際生活機能分類 ・ ノーマライゼーション ・ 「自立」、自立生活、エンパワメント ・ 障害者の生活支援における留意点
単位課題 2	・ 障害者福祉の歴史的展開 ・ 障害者権利条約と合理的配慮 ・ 障害者総合支援法に関わるサービスについて ・ 障害者の生活を支える施策・制度について

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 児童・家庭の福祉	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 児童福祉の基礎知識を習得し、大学のレポート学習及び国家試験の土台を形成する。 また児童の置かれているさまざまな問題について考える機会をつくる。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境を理解し説明できる。 ・ 戦前・戦後の児童福祉の流れを把握することができる。 ・ 子どもの権利条約について理解し、その特徴を伝えることができる。 ・ 児童福祉法の制定の経緯・児童福祉の理念・児童福祉の対象を理解し説明できる ・ 児童福祉法に規定されている児童福祉施設（13種類）を答えることができる。それぞれの施設の内容を把握できる。 ・ 児童虐待の4つの種類を答えることができ、それぞれの種類の内容を把握できる。児童虐待防止法について理解できる。 ・ 発達障害児の現状、及びその支援体制について理解できる。 ・ 社会的養護について実施体制と今後の方向性について理解できる。 ・ 児童の貧困の現状について理解し、その対策（こども食堂）について説明できる。 ・ 児童相談所の役割について理解できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・『社会福祉学習双書』編集委員会編著『社会福祉学習双書2025 第5巻 児童・家庭福祉』全国社会福祉協議会、2025年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	児童家庭福祉の理念と基本的理解
2	子どもの人権・権利保障
3	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
4	児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割
5	母子保健
6	子育て支援・保育・児童健全育成
7	スクールソーシャルワーカー
8	子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉
9	社会的養護
10	児童虐待への対応
11	児童にかかわる様々な法体制
12	児童虐待への対応① 児童虐待の定義と現状
13	児童虐待への対応② 児童虐待への対応
14	障害児福祉① 障害のとらえ方、現状、施策
15	障害児福祉② 障害児福祉における社会福祉専門職の役割
[単位課題]	
単位課題 1	児童家庭福祉の基本的理解 ・ 児童家庭福祉の理念と基本的理解 ・ 子どもの人権・権利保障 ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・ 児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割
単位課題 2	児童家庭福祉の支援の実際 ・ 母子保健 ・ 子育て支援・保育・児童健全育成 ・ スクールソーシャルワーカー ・ 子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉 ・ 社会的養護 ・ 児童虐待への対応 ・ 障害児福祉

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 手話	[授業形態] 対面授業（遠隔及び登校）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数（コマ数）] 2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子		
[授業の目的] 手話技能検定4級の取得を目指せるレベルの手話技能を身に付ける。また言語の1つである手話の基礎知識を習得することで、コミュニケーション能力の幅を広げ、福祉の現場でも活用できるようにする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テスト等を行い、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・ 指文字50音の意味を理解し、表現できる。 ・ 6級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 （あいさつ・天候・疑問・数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角・感情・動作） ・ 5級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 （質問と時間・自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度を示す単語・基本動詞・形容詞） ・ 4級レベルの単語を理解し、表現できる。 （人間・食べ物・動物・生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物・形容詞・副詞・社会・施設・数・地名・動詞）		
[成績評価の方法と基準] すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（手話読み取り試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・ NPO手話技能検定協会著『改訂版 手話技能検定公式テキスト3・4級』日本能率協会マネジメントセンター、2010年		
[備考] 希望者は手話技能検定4級を受験できる（Web試験：9月と3月実施予定）。		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	指文字（50音）
2	都道府県
3	6級レベルの基本単語①（あいさつ・天候・疑問）
4	6級レベルの基本単語②（数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角）
5	6級レベルの基本単語③（感情・動作）
6	5級レベルの基本単語①（質問と時間）
7	5級レベルの基本単語②（自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度）
8	5級レベルの基本単語③（基本動詞・形容詞）
9	4級レベルの単語と例文（単語1：人間・食べ物・動物）
10	4級レベルの単語と例文（単語2：生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物）
11	4級レベルの単語と例文（単語3：形容詞・副詞）
12	4級レベルの単語と例文（単語4：社会・施設・数、単語5：地名）
13	4級レベルの単語と例文（単語6：動詞）
14	まとめ（科目修了試験対策）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
手話検定対策	対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	1単位 16時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子		
[授業の目的]		
手話の授業で学んだ手話に関する知識・技能をより確実にすることで、手話技能検定4級に合格することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・手話技能検定4級に合格できる知識を十分にもつこと。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%)		
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（模擬問題演習）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ NPO手話技能検定協会著『改訂版 手話技能検定公式テキスト3・4級』日本能率協会マネジメントセンター、2010年		
[備考]		
手話技能検定4級を受験する（Web試験：9月と3月実施予定）。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【対面授業（遠隔）】 1 第1回手話技能検定4級模擬問題 2 第2回手話技能検定4級模擬問題 3 第3回手話技能検定4級模擬問題 4 第4回手話技能検定4級模擬問題 5 第5回手話技能検定4級模擬問題 6 第6回手話技能検定4級模擬問題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 点字		[授業形態] 対面授業（遠隔及び登校）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数（コマ数）] 2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子			
[授業の目的] 点字の「読み」・「書き」の基礎を身に付けることを目的とする。また、地域の中にある点字を実際に見てみることで、点字が身近なものであることを理解することも目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テスト等を行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・点字の基本的な「読み」ができるようになる（五十音、濁音・半濁音、拗音・特殊音、数字、アルファベット）。 ・点字の基本的な「書き」ができるようになる（五十音、濁音・半濁音、拗音・特殊音、数字、アルファベット）。 ・点字の文章を読むことができる。 ・点字の文章を書くことができる。 ・墨訳をすることができる。 ・地域の中にある点字を探してまとめることができる。			
[成績評価の方法と基準] すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（筆記試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし（点字記号一覧を用いる）。			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	点字とは、五十音を読む
2	五十音を書く、濁音・半濁音を読む
3	濁音・半濁音を書く、拗音・特殊音を読む
4	拗音・特殊音を書く、数字を読む
5	数字を書く、アルファベットを読む
6	アルファベットを書く、これまでの復習
7	地域の中にある「点字」を探そう
8	地域の中にある「点字」をまとめよう
9	文章を読む（基本）
10	文章を書く（基本）
11	文章を書く（応用①）
12	文章を書く（応用②）
13	墨訳をする
14	まとめ（科目修了試験対策）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 社会保障	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 櫛野 友則		
[授業の目的] 社会保障の基礎的知識及び社会福祉実践への応用的知識の習得を目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・我が国の社会保障制度の概要を説明することができる。 ・各社会福祉制度の諸概要を説明することができる。 ・各社会保険制度の諸概要を説明することができる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・『現場で役立つ! 社会保障制度活用ガイド 2025年版』 中央法規出版、2025年		
[備考] なし		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	【総論】 国民生活と社会保障、社会保障制度の変遷
2	【総論】 高齢化の進む人口構造、延びる平均寿命と低下する出生率
3	【総論】 世帯構造の変化、高齢者世帯の増加
4	【総論】 就業構造、地域構造、国民の生活構造の変化
5	【総論】 増加する社会保障給付と負担
6	【総論】 社会保障制度改革に向けたこれまでの経緯と全体像
7	【各論】 児童に関する手当、育児休業・介護休業
8	【各論】 医療保険制度の概要
9	【各論】 高齢者医療制度
10	【各論】 年金制度の概要と考え方
11	【各論】 公的年金の給付と負担
12	【各論】 諸外国の年金制度
13	【各論】 雇用保険制度
14	【各論】 労働者災害補償保険制度
15	授業のまとめ
[単位課題]	
単位課題 1	【総論】 ・ 国民生活と社会保障、社会保障制度の変遷 ・ 高齢化の進む人口構造、延びる平均寿命と低下する出生率 ・ 世帯構造の変化、高齢者世帯の増加 ・ 就業構造、地域構造、国民の生活構造の変化 ・ 増加する社会保障給付と負担 ・ 社会保障制度改革に向けたこれまでの経緯と全体像
単位課題 2	【各論】 ・ 児童に関する手当、育児休業・介護休業 ・ 医療保険制度の概要 ・ 高齢者医療制度 ・ 年金制度の概要と考え方 ・ 公的年金の給付と負担 ・ 諸外国の年金制度 ・ 雇用保険制度 ・ 労働者災害補償保険制度

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 公的扶助	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 「貧困」の解決し、よりよい制度・よりよい社会の構築には何が必要かを考えるために、①貧困のとらえ方（貧困概念）、②社会保険制度等と他の施策と公的扶助（生活保護制度）との関連、③生活保護制度の現状と歴史、を学ぶ。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・ 貧困の概念を理解し、説明することができる。 ・ 生活保護制度の原理原則や仕組みを把握し、基本的事項を説明することができる。 ・ 貧困対策として、教育や住宅等を生活保護以外の視点からも捉える視点を獲得する。 ・ 生活困窮者自立支援制度の仕組みを把握し、基本的事項を説明することができる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] 『最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援』中央法規出版、2021年		
[備考] なし		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	公的扶助の概念
2	貧困の概念
3	貧困状態にある人の生活実態、貧困状態にある人を取り巻く社会環境
4	貧困の歴史
5	生活保護制度①（生活保護法の構成、目的と原理、原則、保護の種類）
6	生活保護制度②（保護施設、被保護者の権利および義務、財源・予算）
7	生活保護制度③（保護の動向）
8	低所得者に対する法制度①（生活困窮者自立支援制度）
9	低所得者に対する法制度②（生活福祉資金貸付制度）
10	低所得者に対する法制度③（低所得者対策、ホームレス対策）
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①（国、都道府県、市町村）
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②（福祉事務所、自立相談支援機関）
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割③（関係機関、関連職種）
14	貧困に対する支援の実際
15	まとめ
[単位課題]	
単位課題 1	・ 公的扶助の概念 ・ 貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・ 貧困の歴史 ・ 生活保護制度
単位課題 2	・ 低所得者に対する法制度 ・ 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ・ 貧困に対する支援の実際

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
福祉経営		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
福祉サービス提供組織について学び、経営学及び組織運営の基礎的知識の修得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 社会福祉法人とNPO法人の概要を説明できる ・ 集団の力学を説明できる ・ リーダーシップを説明できる ・ 組織の人材養成と確保を説明できる ・ 組織の会計、財務管理を説明できる ・ 適切なサービス提供体制の確保を説明できる ・ 働きやすい労働環境の整備を説明できる			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
『最新・はじめて学ぶ社会福祉22 介護概論』ミネルヴァ書房、2023年			
[備考]			
なし			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割①（福祉サービスを提供する組織）
2	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②（福祉サービスの沿革と概況）
3	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③（組織間連携と促進）
4	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①（組織運営に関する基礎理論）
5	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②（集団の力学に関する基礎理論）
6	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③（リーダーシップに関する基礎理論）
7	福祉サービス提供組織の経営と実際①（経営体制）
8	福祉サービス提供組織の経営と実際②（福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス）
9	福祉サービス提供組織の経営と実際③（適切な福祉サービスの経営管理）
10	福祉サービス提供組織の経営と実際④（情報管理）
11	福祉サービス提供組織の経営と実際⑤（会見管理と財務管理）
12	福祉人材のマネジメント①（福祉人材マネジメント）
13	福祉人材のマネジメント②（福祉人材の育成）
14	福祉人材のマネジメント③（働きやすい労働環境の整備）
15	まとめ
[単位課題]	
単位課題 1	・ 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 ・ 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論
単位課題 2	・ 福祉サービス提供組織の経営と実際 ・ 福祉人材のマネジメント

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
福祉住環境		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		6単位 270時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
福祉住環境コーディネーターとして、高齢者や障害者などの住まいや住環境整備を考える際、対象者の身体機能な生活状況を十分に考慮し、これらの配慮した福祉用具や住宅構造の検討と調整、情報提供などをできること、さらに住環境整備にかかわる家族や専門職間の調整ができることを目指し、必要とされる知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 少子高齢社会の現状と課題を説明できる。 ・ 地域社会、社会全体の取り組みの必要性を説明できる。 ・ 日本の住環境の問題点を列挙できる。 ・ 福祉住環境コーディネーターの定義と役割を説明できる。 ・ 高齢者の自立生活を支える介護保険制度を取り巻く状況、今後の課題を説明できる。 ・ 障害者総合支援法のしくみと、今後の障害者福祉施策の方向性を説明できる。 ・ 高齢者の健康と自立の方法（食事の改善、運動の目的と方法）を提案できる。 ・ 障害者が生活の不自由を克服する方法を提案できる。 ・ バリアフリーとユニバーサルデザインの概要を説明できる。 ・ 共用品と福祉用具の定義と役割、導入の留意点を説明できる。 ・ 住まいの整備のための基本技術（段差、床材、手すり、建具、幅・スペース、家具・収納、色彩・照明、インテリア、冷暖房、非常時の対応、維持管理）を説明できる。 ・ 生活行為別（屋外移動・外出、屋内移動、排泄・整容・入浴、清掃・洗濯・調理、起居・就寝）に見る安全・安心・快適な住まいを提案できる。 ・ ライフスタイルの多様化について説明できる。 ・ 安心できる住生活（高齢者、障害者）を提案できる。 ・ 安心して暮らせるまちづくり（諸法制度含む）について説明できる。			

〔成績評価の方法と基準〕 すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。
〔使用テキスト・参考文献〕 ・ 『福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト（改訂7版）』 東京商工会議所、2025年
〔備考〕

〔授業計画(内容)〕	
(項目)	【印刷教材】
1	＜第1章 第1節＞ 少子高齢社会とユニバーサル社会への道
2	＜第1章 第2節＞ 福祉住環境整備の重要性・必要性
3	＜第1章 第3節＞ 在宅生活の維持とケアサービス
4	＜第2章 第1節＞ 健康と障害の基礎知識
5	＜第2章 第2節＞ 高齢者と障害者の特性
6	＜第2章 第3節＞ 機能の維持・回復をめざすりハビリテーション
7	＜第3章 第1節＞ バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
8	＜第3章 第2節＞ 生活を支えるさまざまな用具
9	＜第4章 第1節＞ 住まいの整備のための基本技術
10	＜第4章 第2節＞ 生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい
11	＜第5章 第1節＞ ライフスタイルの多様化と住まい
12	＜第5章 第2節＞ 安全で安心できる住生活
13	＜第5章 第3節＞ 安全で安心して暮らせるまちづくり
〔単位課題〕	
単位課題1	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして
単位課題2	第2章 健康と障害のとりえ方
単位課題3	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン
単位課題4	第4章 安全・安心・快適な住まい
単位課題5	第5章 安全で安心できる住生活とまちづくり
単位課題6	第1章～第5章 まとめ問題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
福祉住環境コーディネーター検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
福祉住環境の授業で学んだ福祉住環境コーディネーターに関する知識をより確実にすることで、福祉住環境コーディネーター検定3級に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・福祉住環境コーディネーター検定3級に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト（改訂7版）』東京商工会議所、2025年 ・『福祉住環境コーディネーター検定試験3級練習問題』東京商工会議所、2025年			
[備考]			
福祉住環境コーディネーター検定3級を受験する。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷授業】
1	過去問題実施（第1章）
2	過去問題実施（第2章）
3	過去問題実施（第3章）
4	過去問題実施（第4章）
5	過去問題実施（第5章）
6	第1回福祉住環境コーディネーター検定3級模擬問題解説・復習（課題提出）
7	第2回福祉住環境コーディネーター検定3級模擬問題解説・復習（課題提出）
8	第3回福祉住環境コーディネーター検定3級模擬問題解説・復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
心理学の基礎		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
井畑 友佳			
[授業の目的]			
「心理学とはどのような学問なのか?」「どのような種類の心理学があるのか?」「どのようなことに役立つのか?」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやしぐみについての全体像を学ぶ。この授業では、数多くある心理学の分野を広く学んでいくことを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
- 心理学を実学と捉え、心理学諸理論を理解し説明できる。 - 人の心の基本的な仕組みと働きについて理解し説明できる。 - 心理学を学び理解したことを実生活に応用できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
- 考查点(100%) - 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
齊藤勇編『図説心理学入門 [第2版]』誠信書房、2005年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第1章 知覚と認知：図と地、意味的反転図形、群化の法則について
2	第1章 知覚と認知：恒常性の意味、注意、カクテルパーティ効果
3	第2章 欲求と感情：欲求の種類、マズローの欲求階層説について
4	第2章 欲求と感情：フラストレーションとコンフリクトについて
5	第3章 学習・思考・記憶：古典的条件づけ、オペラント条件づけについて
6	第3章 学習・思考・記憶：試行錯誤学習と洞察学習について
7	第4章 発達と教育：発達の概念、発達の規定因、各時期の特徴について
8	第4章 発達と教育：発達と教育に関わる問題について
9	第5章 性格と異常心理：統合失調症、躁うつ病、神経症について
10	第5章 性格と異常心理：精神分析理論、行動理論、自己理論について
11	第6章 対人心理と社会心理：対人認知、対人関係について
12	第6章 対人心理と社会心理：社会的態度、状況の力について
13	第7章 脳と生理心理学：脳の働きと意識、睡眠について
14	第8章 臨床心理学と心理療法：研究者が考える心の構造について
15	第8章 臨床心理学と心理療法：カウンセリング技法について
[単位課題]	
単位課題 1	第1章～第4章に関する内容 ・ 基本的な用語（テキストで太字となっている部分を中心） ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題
単位課題 2	第5章～第8章に関する内容 ・ 基本的な用語（テキストで太字となっている部分を中心） ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
生涯発達心理学		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史			
[授業の目的]			
「人が発達する」ということや発達する期間、発達の 要因となるものについて考えを深める。また、子ども、大人、高齢者といった年齢区分ごとの理解に留まらず「生涯」という視点を活かして「これまで・現在・これからのつながり」と「積み重ね」をキーワードとして 考えながら人の発達について深く学ぶ。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化 していくか説明することができる。			
・ 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。			
・ 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分および周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 山岸明子著『こころの旅 発達心理学入門』新曜社、2011年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か① 発達を学ぶ意義と発達とは？
2	第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か② 発達段階と発達課題について
3	第2章 発達を規定するもの① 発達の規定因について
4	第2章 発達を規定するもの② 発達研究
5	第3章 乳児期－母子関係の成立① 生理的早産
6	第3章 乳児期－母子関係の成立② 母子間の相互作用
7	第4章 幼児期－自立の時期 自我の芽生えについて理解する
8	第5章 乳幼児期－その様々な発達① ことばの発達について理解する
9	第5章 乳幼児期－その様々な発達② ピアジェの発達段階から理解する
10	第6章 児童期 認知の発達について、ギャングエイジ、自我の発達
11	第7章 青年期 青年期に起こる変化がわかる、自我同一性
12	第7章 青年期 青年期の人間関係、現代青年の問題行動
13	第8章 成人期、そして老年期① 成人期の発達課題の特徴
14	第8章 成人期、そして老年期② 老年期の特徴について理解する
15	補章 発達障害について 発達障害の種類と特徴を知る
[単位課題]	
単位課題 1	第1章～第5章に関する内容 ・ 基本的な用語 ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題
単位課題 2	第6章～補章に関する内容 ・ 基本的な用語 ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] カウンセリング	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 井畑 友佳		
[授業の目的] カウンセリングの基礎知識およびピアヘルパーについての知識を十分に身につけることを目的とする。また、講義や実技の学習を通して得た知識を日常生活の中で活かせるように考えていくことも目的の1つとする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・ピアヘルパーについての知識を十分にもつこと。 ・ピアヘルパーの活動を行う意志をもち実行できること。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 日本教育カウンセラー協会編『新版 ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023年 ・ 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年		
[備考] 希望者はピアヘルパー認定試験を受験できる（1月実施予定）。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第1章：構成的グループエンカウンター
2	第1章：エンカウンターのねらい、エンカウンター実施の留意点
3	第1章：カウンセリングの定義と略史と必要性
4	第1章：カウンセリングの種類
5	第1章：ピアヘルピングの関係領域
6	第1章：ピアヘルピングのプロセス「リレーションづくり」
7	第1章：ピアヘルピングのプロセス「問題の把握」
8	第1章：ピアヘルピングのプロセス「問題の解決」
9	第1章：ピアヘルパーのパーソナリティ
10	第1章：カウンセリングの動向
11	第2章：ピアヘルピングの言語的技法（1）
12	第2章：ピアヘルピングの言語的技法（2）
13	第2章：ピアヘルピングの非言語的技法（1）
14	第2章：ピアヘルピングの非言語的技法（2）
15	第2章：対話上の諸問題への対処法
16	第2章：面接の切り上げ方、私的感情、抵抗、沈黙について
17	第2章：問題への対処法～リファラー、ケースワーク、コンサルテーション～
18	第2章：問題への対処法～ピアスーパービジョン、具申、個別ヘルピング～
19	第2章：ピアヘルパーの心構えについて
20	第2章：ヘルピングスキルの上達法
21	第3章：ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点
22	第3章：学業領域～授業がつまらない、授業についていけない～
23	第3章：進路領域～進路の意味、自己実現～
24	第3章：友人領域～心理的離乳、ギブアンドテイク、自己開示～
25	第3章：グループ領域～グループとは何か、グループのまとめ方～
26	第3章：グループ領域～グループの動かし方、リーダーの資質と留意点～
27	第3章：関係修復領域～両方の了承、両方の勝利感～
28	第3章：関係修復領域～完全な和解を期待しないこと～
29	第3章：心理領域～考え方を検討する、状況を変える～
30	第3章：心理領域～事実の確認、自己理解のために～
[単位課題]	
単位課題 1	第1章に関する内容 ・基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題
単位課題 2	第1章～第2章に関する内容

	・ 基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題
単位課題 3	第 2 章に関する内容 ・ 基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題
単位課題 4	第 3 章に関する内容 ・ 基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・ 用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ピアヘルパー検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
井畑 友佳			
[授業の目的]			
カウンセリングの授業で学んだピアヘルパー認定試験に関する知識をより確実にすることで、ピアヘルパー認定試験に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ピアヘルパー認定試験に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考査点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 日本教育カウンセラー協会編『新版 ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023年			
・ 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年			
[備考]			
ピアヘルパー認定試験を受験する（1月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】 1 文章問題対策①（課題提出） 2 文章問題対策②（課題提出） 3 第1回ピアヘルパー模擬問題実施 4 第1回ピアヘルパー模擬問題解説・復習（課題提出） 5 第2回ピアヘルパー模擬問題実施 6 第2回ピアヘルパー模擬問題解説・復習（課題提出） 7 第3回ピアヘルパー模擬問題実施 8 第3回ピアヘルパー模擬問題解説・復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] メンタルヘルス	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的] 最近社会問題となっている職場におけるメンタルヘルスケアの問題について、メンタルヘルスケアおよびストレスの知識、対処方法を学ぶことを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・労働者のストレスの現状と職場におけるメンタルヘルスケアについて理解できる。 ・ストレスとストレスによる健康障害について説明することができる。 ・メンタルヘルス不調の代表的な症状について説明することができる。 ・心の健康問題についての正しい知識を説明できる。 ・自己保健義務、気づき方、早期対処、軽減方法等、自分自身のメンタルヘルスを守る知識について説明することができる。 ・相談機関等、利用できる資源・職種について説明することができる。 ・メンタルヘルスの治療方法および留意点について説明することができる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・大阪商工会議所『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔第5版〕Ⅲ種セルフケアコース』中央経済社、2021年		
[備考] 希望者はメンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種を受験できる（11月または3月予定）。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	オリエンテーション
2	第1章 メンタルヘルスケアの意義①
3	第1章 まとめ
4	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①（ストレス①）
5	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識③（メンタルヘルス）
6	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識⑤（精神疾患①）
7	第2章 まとめ
8	第3章 セルフケアの重要性①
9	第3章 まとめ
10	第4章 ストレスへの気づき方①（仕事内でのストレス、仕事外でのストレス）
11	第4章 ストレスへの気づき方②（いつもと違う自分に気づく）
12	第4章 まとめ
13	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法①（休養・睡眠）
14	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法②（運動・食事）
15	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法③（リラクセーション）
16	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法④（認知行動療法、マインドフルネス）
17	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法⑤（ストレス緩和要因の充実）
18	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法⑥（コミュニケーションスキル）
19	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法⑦（カウンセリングの効果）
20	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法⑧（同期のケア）
21	第5章 まとめ
22	第6章 社内外資源の活用①（事業場内資源と事業場外資源）
23	第6章 社内外資源の活用②（医療機関の種類と選び方）
24	第6章 社内外資源の活用③（治療を決めるポイント、治療の実際）
25	第6章 まとめ
[単位課題]	
単位課題 1	第1～2章（前半）に関する内容 ・メンタルヘルスケアの意義 ・ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（ストレス、メンタルヘルス）
単位課題 2	第2章（後半）～第3章に関する内容 ・ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（精神疾患） ・セルフケアの重要性
単位課題 3	第4章～第5章（前半）に関する内容 ・ストレスへの気づき方 ・ストレスへの対処、軽減の方法（休養・睡眠、運動・食事、リラクセー

単位課題 4	ション、認知行動療法、マインドフルネス) 第5章(後半)～第6章に関する内容 ・ストレスへの対処、軽減の方法(ストレス緩和要因の充実、コミュニケーションスキル、カウンセリングの効果、同期のケア) ・社内外資源の活用
--------	--

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
メンタルヘルス・マネジメント検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
メンタルヘルスの授業で学んだメンタルヘルス・マネジメント検定に関する知識をより確実にすることで、メンタルヘルスヘルス・マネジメント検定Ⅲ種に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・大阪商工会議所『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔第5版〕Ⅲ種セルフケアコース』中央経済社、2021年 ・『メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種セルフケアコース 過去問題集＜2024年度版＞』中央経済社、2024年			
[備考]			
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種を受験する（11月または3月予定）。			

【授業計画(内容)】	
(項目)	【印刷教材】
1	第1回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題実施
2	第1回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題解説・復習（課題提出）
3	第2回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題実施
4	第2回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題解説・復習（課題提出）
5	第3回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題実施
6	第3回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題解説・復習（課題提出）
7	第4回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題実施
8	第4回メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種問題解説・復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] カウンセリング演習Ⅰ		[授業形態] 対面授業（遠隔及び登校）		選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科　１年または２年　通年			[単位数・時間数（コマ数）] ２単位　　３０時間（１５コマ）	
[担当教員および実務経験] 井畑　友佳				
[授業の目的] ピアヘルパー認定試験の内容をもとに、カウンセリング演習について学ぶことを大きなテーマとする。加えて、「心理学とはどのような学問なのか?」「どのようなことに役立つのか?」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやカウンセリングにおける技法について学ぶ。				
[授業の方法および概要] 授業内容への関心を高めるため、コミュニケーションを取りながら学生自身の経験なども踏まえて進めていく。授業時には、到達目標に沿って主にプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。さらに、内容を深く理解するために演習（ロールプレイ・実践・ディベート・ディスカッション等）の時間も適度に取り入れることとする				
[授業の到達目標] ・ 知識を十分にもつこと。 →人の心の基本的な仕組みと働き、カウンセリング技法やその特徴等について具体的に説明できる。 ・ 活動を行う意思を持ち実行できること。 →カウンセリングに関する知識を理解し、さらにその知識を実際に使える、活用しようと意識をもちチャレンジすることも大切となる。				
[成績評価の方法と基準] すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。				
[使用テキスト・参考文献] ・ 日本教育カウンセラー協会編『新版　ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023年 ・ 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年				
[備考]				

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	ピアヘルピングとSGEのエクササイズ
2	カウンセリング理論①「自己理論」
3	カウンセリング理論②「精神分析理論」
4	カウンセリング理論③「行動理論」
5	ピアヘルピングのプロセスと論理療法
6	カウンセリングスキル①「受容・繰り返し・明確化」
7	言語的技法の実践①
8	カウンセリングスキル②「支持・質問」
9	言語的技法の実践②
10	カウンセリングスキル③「非言語的技法」
11	非言語的技法の実践
12	ロールプレイと実践のための話題づくり
13	初回面接への導入のロールプレイ
14	対話上の諸問題への対処法①「ピアヘルパーとは何か？」
15	対話上の諸問題への対処法②「ピアヘルパーの親近感」

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
基礎心理学（こころ検定）	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子		
[授業の目的]		
心理学（学習心理学、認知心理学、生理心理学、知覚心理学、社会心理学、感情心理学、知能）の基礎知識を身につけることを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・「こころ」と行動の関係を説明できる。 ・「こころ」と物事の捉え方の関係を説明できる。 ・「からだ」と「こころ」の関係を説明できる。 ・「見る」・「聞く」と「こころ」の関係を説明できる。 ・「自分」と「他者」の「こころ」を説明できる。 ・「気持ち」と「やる気」を説明できる。 ・「頭を使うこと」と「こころ」の関係を説明できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・『こころ検定4級公式テキスト』教育ナビゲーション、2020年		
[備考]		
希望者は「こころ検定4級」を受験できる。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第1章「こころ」と行動の関係(学習心理学)
2	第2章「こころ」と物事の捉え方の関係(認知心理学)
3	第3章「からだ」と「こころ」の関係(生理心理学)
4	第4章「見る」・「聞く」と「こころ」の関係(知覚心理学)
5	第5章「自分」と「他者」の「こころ」(社会心理学)
6	第6章「気持ち」と「やる気」(感情心理学)
7	第7章「頭を使うこと」と「こころ」の関係(知能)
[単位課題]	
単位課題1	第1章「こころ」と行動の関係(学習心理学) 第2章「こころ」と物事の捉え方の関係(認知心理学)
単位課題2	第3章「からだ」と「こころ」の関係(生理心理学) 第4章「見る」・「聞く」と「こころ」の関係(知覚心理学)
単位課題3	第5章「自分」と「他者」の「こころ」(社会心理学) 第6章「気持ち」と「やる気」(感情心理学)
単位課題4	第7章「頭を使うこと」と「こころ」の関係(知能) まとめ(総合問題)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
こころ検定対策	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子		
[授業の目的]		
基礎心理学（こころ検定）の授業で学んだこころ検定4級に関する知識をより確実にすることで、こころ検定4級に合格することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・こころ検定4級に合格できる知識を十分にもつこと。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%)		
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・『こころ検定4級公式テキスト』教育ナビゲーション、2020年		
・『こころ検定4級対策問題集』教育ナビゲーション、2024年		
[備考]		
こころ検定4級を受験する。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	対策問題①演習
2	対策問題①復習・解説づくり（課題提出）
3	対策問題②演習
4	対策問題②復習・解説づくり（課題提出）
5	対策問題③演習
6	対策問題③復習・解説づくり（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
応用心理学A（心理学検定A）		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子			
[授業の目的]			
心理学検定A領域（①原理・研究法・歴史、②学習・認知・知覚、③発達・教育、④社会・感情・性格、⑤臨床・障害）の応用知識を身につけることを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「1. 原理・研究法・歴史」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「2. 学習・認知・知覚」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「3. 発達・教育」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「4. 社会・感情・性格」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「5. 臨床・障害」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考査点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 心理学検定局編『心理学検定基キーワード〔第3版〕』実務教育出版、2024年			
・ 心理学検定局編『心理学検定公式問題集 2025年度版』実務教育出版、2025年			
[備考]			
希望者は「心理学検定」を受験できる。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	1. 原理・研究法・歴史
2	2. 学習・認知・知覚
3	3. 発達・教育
4	4. 社会・感情・性格
5	5. 臨床・障害
[単位課題]	
単位課題 1	1. 原理・研究法・歴史 2. 学習・認知・知覚
単位課題 2	3. 発達・教育
単位課題 3	4. 社会・感情・性格
単位課題 4	5. 臨床・障害

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
応用心理学B（心理学検定B）		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子			
[授業の目的]			
心理学検定B領域（⑥神経・生理、⑦統計・測定・評価、⑧産業・組織、⑨健康・福祉、⑩犯罪・非行）の応用知識を身につけることを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「6. 神経・生理」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「7. 統計・測定・評価」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「8. 産業・組織」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「9. 健康・福祉」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
・「10. 犯罪・非行」で出題される基本キーワードを簡潔に説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 心理学検定局編『心理学検定基キーワード〔第3版〕』実務教育出版、2024年			
・ 心理学検定局編『心理学検定公式問題集 2025年度版』実務教育出版、2025年			
[備考]			
希望者は「心理学検定」を受験できる。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	6. 神経・生理
2	7. 統計・測定・評価
3	8. 産業・組織
4	9. 健康・福祉
5	10. 犯罪・非行
[単位課題]	
単位課題 1	6. 神経・生理 7. 統計・測定・評価
単位課題 2	8. 産業・組織
単位課題 3	9. 健康・福祉
単位課題 4	10. 犯罪・非行

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
心理学検定対策	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子		
[授業の目的]		
応用心理学（心理学検定A・B）の授業で学んだ心理学検定に関する知識をより確実にすることで、心理学検定2級以上に合格することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・心理学検定2級以上に合格できる知識を十分にもつこと。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 心理学検定局編『心理学検定基キーワード〔第3版〕』実務教育出版、2024年 ・ 心理学検定局編『心理学検定公式問題集 2025年度版』実務教育出版、2025年		
[備考]		
心理学検定を受験する。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
	< A 領域 >
1	「原理・研究法・歴史」問題演習&復習（課題提出）
2	「学習・認知・知覚」問題演習&復習（課題提出）
3	「発達・教育」問題演習&復習（課題提出）
4	「社会・感情・性格」問題演習&復習（課題提出）
5	「臨床・障害」問題演習&復習（課題提出）
	< B 領域 >
6	「神経・生理」問題演習&復習（課題提出）
7	「統計・測定・評価」問題演習&復習（課題提出）
8	「産業・組織」問題演習&復習（課題提出）
9	「健康・福祉」問題演習&復習（課題提出）
10	「犯罪・非行」問題演習&復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
保育の基礎Ⅰ	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
保育士試験に初挑戦する人のために、「保育」に関連する科目の最も基礎的な知識を習得し、保育士試験に向けてのイメージを持つことができるようになることを目的とする。本科目では、その中でも「保育原理」「教育原理」「保育実習理論」の3科目の範囲の学習を効果的に進められるようにする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
<保育原理> ・「保育」「保育所」「保育所保育指針」「保育士」を、それぞれ説明できる。 ・子どもの発達過程に応じた保育について、説明できる。 ・保育の「目標」「内容」「計画」「実践」「評価」のポイントを列挙できる。 ・「世界の保育の思想と歴史」と「日本の保育の思想と歴史」の違いを説明できる。 <教育原理> ・「教育とは何か」を説明し、幼児教育の基本を列挙できる。 ・教育に関する法律を列挙できる。 ・現代の学校教育制度と実践方法を説明できる。 ・日本の学校教育の歴史と現在について、諸外国の教育思想との違いを説明できる。 <保育実習理論> ・保育の養護の側面と教育の側面を説明できる。 ・児童福祉施設とそこに配置される職員を列挙できる。 ・音楽表現のねらいを説明できる。 ・造形表現のとらえ方を説明できる。 ・読み聞かせや紙芝居のポイントを説明できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		

[使用テキスト・参考文献]

・コンデックス情報研究所『保育士入門テキスト‘25年版』成美堂出版、2024年

[備考]

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

[授業計画(内容)]

(項目)	【印刷教材】
1	「保育」と「保育所」とは？ ／ 「保育所保育指針」とは？
2	「保育士」を理解しよう ／ 保育の基本とは？
3	子どもの発達と保育 ／ 保育の目標と内容
4	保育の計画と実践 ／ 保育を評価する
5	世界の保育の思想と歴史 ／ 日本の保育の思想と歴史
6	教育とは？ ／ 幼児教育の基本 ／ 教育に関する法律など
7	現代の学校教育制度 ／ 教育の実践
8	日本の学校教育の歴史と現在 ／ 諸外国の教育思想
9	保育所での保育 ／ 児童福祉施設とは？
10	子どもの音楽表現 ／ 楽譜と音楽の基礎知識
11	和音 ／ 音楽の記号と専門用語
12	子どもの造形表現 ／ 「つくる」活動の発達 ／ 「描く」活動の発達
13	表現活動の技法と材料 ／ 色と形の基礎知識
14	表現活動の文化 ／ 子どもの話し言葉
15	まとめ（「保育原理」「教育原理」「保育実習理論」のポイント整理）
【単位課題】	
単位課題 1	「保育原理」 ・ 保育に関する用語 ・ 子どもの発達過程 ・ 世界と日本の保育の思想と歴史 「教育原理」 ・ 教育に関する法律 ・ 現代の学校教育制度と実践方法 ・ 世界と日本の教育の思想と歴史
単位課題 2	「保育実習理論」 ・ 保育の養護の側面と教育の側面 ・ 児童福祉施設 ・ 音楽表現 ・ 造形表現 ・ 言語表現

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
保育の基礎Ⅱ	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
保育士試験に初挑戦する人のために、「保育」に関連する科目の最も基礎的な知識を習得し、保育士試験に向けてのイメージを持つことができるようになることを目的とする。本科目では、その中でも「子ども家庭福祉」「社会福祉」「社会的養護」の3科目の範囲の学習を効果的に進められるようにする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
＜子ども家庭福祉＞ - 子ども家庭福祉の考え方、子どもの権利、児童福祉の歴史の概要を説明できる。 - 子ども家庭福祉の法律を列挙できる。 - 児童虐待の種類を4つ説明できる。 - 非行少年の3つの分類の違いを説明できる。 - 子ども家庭福祉の専門職を列挙できる。 ＜社会福祉＞ - 社会福祉の歴史の流れを説明し、関連する法律を列挙できる。 - 生活保護の概要を説明できる。 - 社会保障制度の概要を説明できる。 - 社会福祉の専門職を列挙できる。 - 相談援助（ソーシャルワーク）の展開過程を説明できる。 ＜社会的養護＞ - 社会的養護の6つの原理を列挙できる。 - 児童福祉法に定められている児童福祉施設のうち代表的な施設を5施設列挙できる。 - 里親制度を4種類説明できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
- 考查点(100%) - 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		

〔使用テキスト・参考文献〕
・コンデックス情報研究所『保育士入門テキスト‘25年版』成美堂出版、2024年
〔備考〕
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

〔授業計画(内容)〕	
(項目)	【印刷教材】
1	子ども家庭福祉の考え方 / 子どもの権利と児童福祉の歴史
2	子ども家庭福祉の法律 / 行政の役割 / 児童相談所
3	児童虐待 / 非行少年
4	子ども家庭福祉の専門職
5	社会福祉とは？ / 社会福祉の歴史 / 社会福祉の法律
6	生活保護
7	社会保障制度
8	高齢者保健福祉 / 障害者福祉
9	社会福祉の専門職
10	相談援助
11	社会的養護とは？ / 施設養護ってどんなことをするの？
12	施設養護の流れ / 施設養護に関する基準と現状
13	施設の形態はどうなっているの？ / 里親制度
14	施設の運営はどうなっているの？
15	まとめ（「子ども家庭福祉」「社会福祉」「社会的養護」のポイント整理）
〔単位課題〕	
単位課題 1	「子ども家庭福祉」 ・児童福祉の歴史 ・子ども家庭福祉の法律 ・児童虐待 ・非行少年 ・子ども家庭福祉の専門職
単位課題 2	「社会福祉」 ・社会福祉の歴史 ・社会福祉の法律 ・生活保護 ・社会保障制度 ・社会福祉の専門職 ・相談援助 「社会的養護」 ・社会的養護の原理

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 児童福祉施設・ 里親制度 |
|--|---|

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育の基礎Ⅲ		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験に初挑戦する人のために、「保育」に関連する科目の最も基礎的な知識を習得し、保育士試験に向けてのイメージを持つことができるようになることを目的とする。本科目では、その中でも「保育の心理学」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」の3科目の範囲の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
＜保育の心理学＞ ・胎児期から幼児期の発達過程を説明できる。 ・乳幼児の発達の特徴を説明できる。 ・児童期（学童期）から老年期の発達の特徴を説明できる。 ・エリクソンのライフサイクルの概要を説明できる。 ＜子どもの保健＞ ・子どもの「保健」と「健康」の定義を説明できる。 ・子どもの健康管理のポイントを列挙できる。 ・感染症の3大要因と感染症対策を説明できる。 ・子どもの事故防止及び安全対策を説明できる。 ＜子どもの食と栄養＞ ・食生活指針10項目を列挙できる。 ・5大栄養素を列挙し、主な働きを説明できる。 ・「乳児期」「幼児期」「学齢期・思春期」それぞれの食生活のポイントを説明できる。 ・「食育」とは何かを説明できる。 ・子どもの食生活で気をつけることを列挙できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点(100%) ・到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			

〔使用テキスト・参考文献〕 ・コンデックス情報研究所『保育士入門テキスト‘25年版』成美堂出版、2024年
〔備考〕 希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

〔授業計画(内容)〕	
(項目)	【印刷教材】
1	保育の心理学を学ぶ / 胎児期から幼児期の発達過程
2	乳幼児の発達の特徴 / 児童期（学童期）から老年期の発達
3	子どもの発達と保育の実践 / 子ども家庭支援と子ども理解
4	心理学者と子どもの発達
5	子どもの心身の健康と保健 / 子どもの身体的発育・発達と保健
6	子どもの精神保健 / 子どもの健康管理
7	子どもの感染症 / 障害のある子どもへの対応
8	子どもの健康と安全 / 母子保健・地域保健における関係機関との連携
9	子どもの食生活 / 栄養の基礎知識
10	「日本人の食事摂取基準」とは？ / 乳児期の栄養と食生活
11	幼児期の栄養と食生活 / 学齢期・思春期の栄養と食生活
12	妊娠期・授乳期の食生活 / 児童福祉施設での食生活
13	食育とは？
14	子どもの食生活で気をつけること
15	まとめ（「子ども家庭福祉」「社会福祉」「社会的養護」のポイント整理）
〔単位課題〕	
単位課題 1	「保育の心理学」 ・胎児期から幼児期の発達過程 ・乳幼児の発達の特徴 ・児童期（学童期）から老年期の発達の特徴 ・エリクソンのライフサイクル 「子どもの保健」 ・子どもの「保健」と「健康」 ・子どもの健康管理 ・感染症 ・子どもの事故防止及び安全対策
単位課題 2	「子どもの食と栄養」 ・食生活指針 ・5大栄養素 ・栄養と食生活のポイント ・食育

・子どもの食生活で気をつけること

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育原理		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験科目の中で「保育原理」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 保育の理念と概念を説明できる。 ・ さまざまな保育の場を列挙できる。 ・ 保育の法的枠組みを説明できる。 ・ 保育所保育に関する基本原則（役割、目標、方法、環境）を説明できる。 ・ 保育内容の5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を説明できる。 ・ 保育の実施に関して留意すべき事項を説明できる。 ・ 保育の計画・展開及び評価について説明できる。 ・ 保育における個と集団への配慮を説明できる。 ・ 乳児保育の意義・目的と役割を説明できる。 ・ 障害児保育を支える理念を説明できる。 ・ 保育所における子育て支援の特性を列挙できる。 ・ 近代における保育思想の発展を説明できる。 ・ 日本における保育の歴史的変遷を説明できる。 ・ 保育所の社会的役割と責任を説明できる。 ・ 保育士の倫理観と専門性を説明できる。 ・ 世界の保育の現状と課題を説明できる。 ・ 日本の保育の現状と課題を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			

・コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト〔上巻〕‘25年版』
成美堂出版、2024年

〔備考〕

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

〔授業計画（内容）〕

（項目）	【印刷教材】
1	保育の意義と理念①
2	保育の意義と理念②
3	保育に関する法令及び制度
4	保育所保育指針における保育の基本と保育内容①
5	保育所保育指針における保育の基本と保育内容②
6	乳児保育
7	障害児保育
8	子育て支援①
9	子育て支援②
10	保育の思想と歴史的変遷①
11	保育の思想と歴史的変遷②
12	保育所の役割と保育士の専門性①
13	保育所の役割と保育士の専門性②
14	保育の現状と課題
15	まとめ（これまでの復習）

〔単位課題〕

単位課題 1	・ 保育の意義と理念 ・ 保育に関する法令及び制度 ・ 保育所保育指針における保育の基本と保育内容 ・ 乳児保育 ・ 障害児保育
単位課題 2	・ 子育て支援 ・ 保育の思想と歴史的変遷 ・ 保育所の役割と保育士の専門性 ・ 保育の現状と課題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 教育原理		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 1単位 45時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的] 保育士試験科目の中で「教育原理」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・ 教育の意義と目的を説明できる。 ・ 子どもの人権と教育の概要を説明できる。 ・ 家庭や地域との連携について説明できる。 ・ 諸外国の教育思想と教育方法、教育改革を説明できる。 ・ 日本の教育思想と教育方法を説明できる。 ・ 教育全般に関する教育法規と学校教育に関する教育法規を説明できる。 ・ 幼稚園教育要領の概要を説明できる。 ・ カリキュラム（教育課程）を説明できる。 ・ 教育指導の原理と形態を説明できる。 ・ 教育の評価について説明できる。 ・ 生涯学習社会と教育の概要を説明できる。 ・ 現代の教育課題を列挙できる。			
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] ・ コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト [上巻] ‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考] 希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性①
2	教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性②
3	教育の思想と教育方法の歴史的変遷①
4	教育の思想と教育方法の歴史的変遷②
5	教育の制度
6	教育の実践
7	生涯学習社会における教育の現状と課題
8	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性 ・教育の思想と教育方法の歴史的変遷 ・教育の制度 ・教育の実践 ・生涯学習社会における教育の現状と課題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
社会的養護		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験科目の中で「社会的養護」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 社会的養護の歴史を説明できる。 ・ 社会的養護の定義と体系を説明できる。 ・ 児童福祉施設の組織運営の概要を説明できる。 ・ 児童福祉施設の目的と配置基準を説明できる。 ・ 施設養護の特質と支援のすすめ方を説明できる。 ・ 施設養護の基本原理と機能を列挙できる。 ・ 施設における日常生活支援の概要を説明できる。 ・ 施設養護の専門職を列挙できる。 ・ 里親支援事業の概要を説明できる。 ・ 社会的養護の今後の課題を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト [上巻] ‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【印刷教材】
1	社会的養護の歴史と児童の権利擁護
2	社会的養護の体系①
3	社会的養護の体系②
4	児童福祉施設の運営と管理
5	施設を基盤とした社会的養護
6	里親推進の取り組みとフォスタリング業務
7	子供の社会的養護における今後の課題
8	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・ 社会的養護の歴史と児童の権利擁護 ・ 社会的養護の体系 ・ 児童福祉施設の運営と管理 ・ 施設を基盤とした社会的養護 ・ 里親制度推進の取り組みとフォスタリング業務 ・ 子どもの社会的養護における今後の課題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
子ども家庭福祉	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
保育士試験科目の中で「子ども家庭福祉」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・ 児童家庭福祉の歴史的変遷を説明できる。 ・ 保育所等における保育サービスを列挙できる。 ・ 子ども家庭福祉の制度と法体系を説明できる。 ・ 児童家庭福祉行財政と実施機関を説明できる。 ・ 児童福祉施設を列挙し、それぞれの違いを説明できる。 ・ 児童家庭福祉の専門職・実施者を列挙し、それぞれの概要を説明できる。 ・ 少子化と子育て支援サービスを説明できる。 ・ 母子保健と児童の健全育成について説明できる。 ・ 児童虐待防止の概要を説明できる。 ・ ドメスティック・バイオレンス、非行少年、障害のある児童への対応の概要を説明できる。 ・ 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを説明できる。 ・ 諸外国の動向を説明できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト〔上巻〕‘25年版』成美堂出版、2024年		
[備考]		
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷①
2	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷②
3	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷③
4	子ども家庭福祉と保育①
5	子ども家庭福祉と保育②
6	子ども家庭福祉と保育③
7	子ども家庭福祉の制度と実施体系①
8	子ども家庭福祉の制度と実施体系②
9	子ども家庭福祉の制度と実施体系③
10	子ども家庭福祉の現状と課題①
11	子ども家庭福祉の現状と課題②
12	子ども家庭福祉の現状と課題③
13	子ども家庭福祉の動向と展望①
14	子ども家庭福祉の動向と展望②
15	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・ 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷 ・ 子ども家庭福祉と保育 ・ 子ども家庭福祉の制度と実施体系
単位課題 2	・ 子ども家庭福祉の現状と課題 ・ 子ども家庭福祉の動向と展望

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 社会福祉	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 2単位 90時間
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的] 保育士試験科目の中で「社会福祉」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・社会福祉の概念と理念を説明できる。 ・社会福祉の対象と主体を説明できる。 ・現代社会の特徴と福祉ニーズを説明できる。 ・イギリスにおける社会福祉の歴史を説明できる。 ・日本における社会福祉の歴史と施策を説明できる。 ・社会福祉の法体系を説明し、主な社会福祉に関する法律等を列挙できる。 ・社会福祉の費用負担について説明できる。 ・社会福祉行政の実施体制を説明できる。 ・社会福祉サービスの提供体制を説明できる。 ・社会福祉従事者の資格を列挙できる。 ・社会保障の機能と分野を説明し、医療保障、所得保障、労働保障の概要を説明できる。 ・相談援助の意義と原則、方法と技術の概要を説明できる。 ・社会福祉サービスの情報提供と第三者評価事業を説明できる。 ・利用者の権利擁護と苦情解決の仕組みを説明できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点(100%) ・到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト [上巻] ‘25年版』成美堂出版、2024年		
[備考]		

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	現代社会と社会福祉①
2	現代社会と社会福祉②
3	社会福祉の歴史①
4	社会福祉の歴史②
5	社会福祉の法制度①
6	社会福祉の法制度②
7	社会福祉行財政の実施体制と福祉サービスの提供体制①
8	社会福祉行財政の実施体制と福祉サービスの提供体制②
9	社会保障制度①
10	社会保障制度②
11	社会福祉における相談援助①
12	社会福祉における相談援助②
13	社会福祉における利用者保護の仕組み①
14	社会福祉における利用者保護の仕組み②
15	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・ 現代社会と社会福祉 ・ 社会福祉の歴史 ・ 社会福祉の法制度 ・ 社会福祉行財政の実施体制と福祉サービスの提供体制
単位課題 2	・ 社会保障制度 ・ 社会福祉における相談援助 ・ 社会福祉における利用者保護の仕組み

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育の心理学		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験科目の中で「保育の心理学」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・発達観と保育観を説明できる。 ・発達を規定するものを列挙できる。 ・身体的機能と運動機能の発達について説明できる。 ・感情の発達と自己制御について説明できる。 ・「言葉」「認知」「愛着」「社会性」の発達について、それぞれ簡潔に説明できる。 ・社会的交互作用を説明できる。 ・初期経験の重要性を説明できる。 ・生涯発達と発達課題を列挙し、各時期における発達の特徴を説明できる。 ・子どもを取り巻く状況と課題を説明できる。 ・子育て家庭への支援を提案できる。 ・子どものこころと健康に関わる問題を説明できる。 ・主な発達障害を列挙できる。 ・子どもの生活と学び、遊びと学びの概要を説明できる。 ・環境との相互作用を説明できる。 ・アセスメントの方法を説明できる。 ・個人差や各時期の発達過程に応じた保育を提案できる。 ・「基本的生活習慣の獲得」「自己の主体性の形成」に向けた発達援助を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			

・コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト〔上巻〕‘25年版』
成美堂出版、2024年

〔備考〕

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

〔授業計画（内容）〕

（項目）	【印刷教材】
1	発達をとらえる視点①
2	発達をとらえる視点②
3	子どもの発達過程①
4	子どもの発達過程②
5	生涯発達①
6	生涯発達②
7	子ども家庭支援①
8	子ども家庭支援②
9	子どもを理解する視点①
10	子どもを理解する視点②
11	子どもを理解する方法①
12	子どもを理解する方法②
13	子どもの理解に基づく発達援助①
14	子どもの理解に基づく発達援助②
15	まとめ（これまでの復習）

〔単位課題〕

単位課題 1	・発達をとらえる視点 ・子どもの発達過程 ・生涯発達
単位課題 2	・子ども家庭支援 ・子どもを理解する視点 ・子どもを理解する方法 ・子どもの理解に基づく発達援助

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
子どもの保健	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
保育士試験科目の中で「子どもの保健」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・子どもの健康と保険の意義を説明できる。 ・児童虐待の現状と、児童虐待への対応を説明できる。 ・子どもの身体発育と保健（計測・評価）について説明できる。 ・乳幼児健康診査の概要を説明できる。 ・「生理機能」「運動機能」「精神機能」の発達と保障について説明できる。 ・子どもの健康状態の観察について説明できる。 ・子どもに多くみられる主な疾病の特徴を説明できる。 ・アレルギー疾患のある子どもの保育について説明できる。 ・予防接種について説明できる。 ・保育所等における感染症対策を説明できる。 ・子どもの生活環境と心の健康について説明できる。 ・子どもの発達障害と保育の環境について説明できる。 ・環境及び衛生管理並びに安全管理について説明できる。 ・健康及び安全の実施体制について説明できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト [上巻] ‘25年版』成美堂出版、2024年		
[備考]		

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

[授業計画(内容)]

(項目)	【印刷教材】
1	子どもの健康と保健の意義
2	地域における保健活動と児童虐待防止
3	子どもの身体的発育・発達と保健①
4	子どもの身体的発育・発達と保健②
5	子どもの心身の健康状態とその把握①
6	子どもの心身の健康状態とその把握②
7	感染症と予防対策①
8	感染症と予防対策②
9	子どもの生活環境と心の健康①
10	子どもの生活環境と心の健康②
11	子どもの発達障害と保育の環境①
12	子どもの発達障害と保育の環境②
13	環境及び衛生管理並びに安全管理
14	健康及び安全の実施体制
15	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・子どもの健康と保健の意義 ・地域における保健活動と児童虐待防止 ・子どもの身体的発育・発達と保健 ・子どもの心身の健康状態とその把握
単位課題 2	・感染症と予防対策 ・子どもの生活環境と心の健康 ・子どもの発達障害と保育の環境 ・環境及び衛生管理並びに安全管理 ・健康及び安全の実施体制

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
子どもの食と栄養		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科　１年または２年　通年		２単位　　９０時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉　啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験科目の中で「子どもの食と栄養」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・子どもの心身の健康と食生活の意義を説明できる。 ・国の食生活支援について説明できる。 ・栄養素の種類（炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、水）と機能を説明できる。 ・日本人の食事摂取基準を説明できる。 ・食品の種類と特徴を説明できる。 ・献立作成・調理の基本を説明できる。 ・発育・発達の概要を説明できる。 ・妊娠・授乳期の栄養と食生活を説明できる。 ・乳児期の栄養と食生活を説明できる。 ・幼児期の栄養と食生活を説明できる。 ・学童期・思春期の栄養と食生活を説明できる。 ・食育基本法の概要を説明できる。 ・発育・発達過程に応じた食育を説明できる。 ・保育所における食育の概要を説明できる。 ・家庭や児童福祉施設の栄養と食生活を説明できる。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			

・コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト〔上巻〕‘25年版』
成美堂出版、2024年

〔備考〕

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

〔授業計画（内容）〕

（項目）	【印刷教材】
1	子どもの健康と食生活の意義
2	栄養の基礎知識①
3	栄養の基礎知識②
4	食事の基礎知識①
5	食事の基礎知識②
6	発育発達の基礎知識
7	妊娠・授乳期の栄養と食生活
8	乳児期の栄養と食生活
9	幼児期の栄養と食生活
10	学童期・思春期の栄養と食生活／生涯発達と食生活
11	食育の基本と内容①
12	食育の基本と内容②
13	家庭や児童福祉施設の栄養と食生活
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15	まとめ（これまでの復習）

〔単位課題〕

単位課題 1	・子どもの健康と食生活の意義 ・栄養の基礎知識 ・食事の基礎知識 ・発育発達の基礎知識 ・妊娠・授乳期の栄養と食生活
単位課題 2	・乳児期の栄養と食生活 ・幼児期の栄養と食生活 ・学童期・思春期の栄養と食生活／生涯発達と食生活 ・食育の基本と内容① ・家庭や児童福祉施設の栄養と食生活 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養・様式の栄養と食生活

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 保育実習理論	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的] 保育士試験科目の中で「保育実習理論」に関連する知識を学習し、保育士試験合格に向けての基礎知識を習得することを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・ 保育所保育の役割と機能を説明できる。 ・ 保育計画の概要を説明できる。 ・ 養護と教育の関連を説明できる。 ・ 保育所以外の児童福祉施設の養護について説明できる。 ・ 音楽表現に関する技術の概要を説明できる。 ・ 「楽譜」「音程」「音階」「調」「和音・コードネーム」「音楽記号・用語（楽語）」の基本を説明できる。 ・ 「表現」のとらえ方を説明できる。 ・ 「つくる活動」の発達、「描く活動」の発達について説明できる。 ・ 技法遊び（モダンテクニック）の概要を説明できる。 ・ 版画の種類を説明できる。 ・ 表現活動の材料を説明できる。 ・ 「色彩」と「形態」の基本を説明できる。 ・ 表現活動の文化について説明できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・ コンデックス情報研究所『いちばんわかりやすい保育士合格テキスト [上巻] ‘25年版』成美堂出版、2024年		
[備考]		

希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。

[授業計画(内容)]

(項目)	【印刷教材】
1	保育所保育①
2	保育所保育②
3	保育所保育③
4	保育所以外の児童福祉施設の養護
5	音楽理論①
6	音楽理論②
7	子どもの造形表現の発達と特徴①
8	子どもの造形表現の発達と特徴②
9	表現活動の技法と材料①
10	表現活動の技法と材料②
11	色や形の基礎知識①
12	色や形の基礎知識②
13	表現活動の文化
14	保育実習実技（音楽・造形・言語）
15	まとめ（これまでの復習）
[単位課題]	
単位課題 1	・ 保育所保育 ・ 保育所以外の児童福祉施設の養護 ・ 音楽理論
単位課題 2	・ 子どもの造形表現の発達と特徴 ・ 表現活動の技法と材料 ・ 色や形の基礎知識 ・ 表現活動の文化

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 保育士試験対策：保育原理	[授業形態] 対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）		
[授業の目的] 保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「保育原理」の学習を効果的に進められるようにする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・「保育原理」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年		
[備考] 希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「保育原理①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「保育原理②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「保育原理③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「保育原理④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「保育原理⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「保育原理⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：教育原理・社会的養護		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「教育原理」「社会的養護」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「教育原理」「社会的養護」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「教育原理①」「社会的養護①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「教育原理②」「社会的養護②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「教育原理③」「社会的養護③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「教育原理④」「社会的養護④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「教育原理⑤」「社会的養護⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「教育原理⑥」「社会的養護⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：子ども家庭福祉		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「子ども家庭福祉」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「子ども家庭福祉」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「子ども家庭福祉①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「子ども家庭福祉②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「子ども家庭福祉③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「子ども家庭福祉④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「子ども家庭福祉⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「子ども家庭福祉⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：社会福祉		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「社会福祉」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「社会福祉」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「社会福祉①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「社会福祉②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「社会福祉③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「社会福祉④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「社会福祉⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「社会福祉⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：保育の心理学		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「保育の心理学」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「保育の心理学」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「保育の心理学①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「保育の心理学②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「保育の心理学③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「保育の心理学④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「保育の心理学⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「保育の心理学⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：子どもの保健		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「子どもの保健」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「子どもの保健」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「子どもの保健①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「子どもの保健②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「子どもの保健③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「子どもの保健④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「子どもの保健⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑤「子どもの保健⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
保育士試験対策：子どもの食と栄養		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「子どもの食と栄養」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・「子どもの食と栄養」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考]			
希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「子どもの食と栄養①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「子どもの食と栄養②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「子どもの食と栄養③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「子どもの食と栄養④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「子どもの食と栄養⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑥「子どもの食と栄養⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 保育士試験対策：保育実習理論		[授業形態] 対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的] 保育士試験合格を目指し、問題演習を通して試験本番に向けた応用力を身に付けることを目的とする。本科目では、その中でも「保育実習理論」の学習を効果的に進められるようにする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる問題演習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・「保育実習理論」の過去問題演習を繰り返し、正答率8割以上を達成できる。			
[成績評価の方法と基準] すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] ・ コンデックス情報研究所『1回で受かる！保育士過去問題集‘25年版』成美堂出版、2024年			
[備考] 希望者は2年次に保育士試験を受験できる（4月と10月実施予定）。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	過去問演習・解説・復習①「保育実習理論①」（2022年前期）
3～4	過去問演習・解説・復習②「保育実習理論②」（2022年後期）
5～6	過去問演習・解説・復習③「保育実習理論③」（2023年前期）
7～8	過去問演習・解説・復習④「保育実習理論④」（2023年後期）
9～11	過去問演習・解説・復習⑤「保育実習理論⑤」（2024年前期）
12～14	過去問演習・解説・復習⑤「保育実習理論⑥」（2024年後期）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
人間関係とコミュニケーション	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
[授業の目的]		
介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養うための学習とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、補助教材プリントによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・コミュニケーション障害者を含む他者との人間形成ができる。 ・様々な状況に応じてコミュニケーション技法を活かすことができる。 ・コミュニケーションの基礎を学び、その大切さを知り、円滑な人間関係作りを支援できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版』中央法規出版、2022年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	コミュニケーションとは
2	人間らしさとは
3	自己理解と他者理解
4	発達心理学からみた人間関係
5	社会心理学からみた人間関係①
6	社会心理学からみた人間関係②
7	人間関係とストレス①
8	人間関係とストレス②
9	対人関係におけるコミュニケーション①
10	対人関係におけるコミュニケーション②
11	対人援助関係とコミュニケーション①
12	対人援助関係とコミュニケーション②
13	対人援助関係とコミュニケーション③
14	組織におけるコミュニケーション
15	まとめ（科目修了試験対策）
[単位課題]	
単位課題 1	・ コミュニケーションとは ・ 人間らしさとは ・ 自己理解と他者理解 ・ 発達心理学からみた人間関係 ・ 社会心理学からみた人間関係
単位課題 2	・ 人間関係とストレス ・ 対人関係におけるコミュニケーション ・ 対人援助関係におけるコミュニケーション ・ 組織におけるコミュニケーション

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 介護と福祉A		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 須田 恵子 (看護職として実務経験20年)			
[授業の目的] ・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について考えることで、人とのつながりや専門的な知識やスキルの習得の必要性、社会貢献について深く理解する。 ・チームケアにおける介護職員としての心得について考えることで、医師や看護師、ソーシャルワーカーなど、多職種で構成されたチームで行っていることが確認できる。その中で自分の役割や責任を理解する、適切なタイミングで情報共有を行うことが重要であることを学ぶ。 ・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識するのかを振り返り替えることによって、聞くことの重要性や丁寧言葉使い、視線を合わせて自らの姿勢や表情も意識が必要になることが理解する。 ・利用者に対して自立支援を促す理由を考えることで利用者には、自分自身の生活について自己決定権があることや、自分の生活に責任を持ち、人間らしい生活を送ることの大切さを学ぶ。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について考えることができる。 ・チームケアにおける介護職員としての心得について考えることができる。 ・利用者に対して自立支援を促す理由を考えることができる。 ・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識するのかを振り返ることができる。			
[成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	単位課題 1 に関する内容の解説
2	単位課題 1 の作成・補足説明
3	単位課題 2 に関する内容の解説
4	単位課題 2 の作成・補足説明
5	単位課題 3 に関する内容の解説
6	単位課題 3 の作成・補足説明
7	単位課題 4 に関する内容の解説
8	単位課題 4 の作成・補足説明
[単位課題]	
単位課題 1	・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について、内容を自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 2	・チームケアにおける介護職員としての心得とはどのようなものか、自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 3	・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識しなければならないのか、自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 4	・利用者に対して自立支援を促す理由について、自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 介護と福祉B		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 郷原 淳子 (介護兼相談業務10年・介護支援専門員6年)			
[授業の目的] ・認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切なことはなにか考えることができ、相手の状態や感情を考慮しながら、適切な方法で話すことができる。 ・利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について考えることで、利用者の尊厳や安全、心理的なサポートに配慮する必要性を理解することができる。 ・高齢者の生活支援に必要な技術とは何かについて考えることで、高齢者の健康や安全、生活の質を改善するための根拠を学ぶことができる。 ・利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性を考える。科学的に検証された介入方法や支援方法を用い、利用者の生活の質の改善ができることを学ぶ。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切なことについて考えることができる。 ・利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について理解することができる。 ・高齢者の生活支援に必要な技術とは何か理解することができる。 ・利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性について理解することができる。			
[成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	単位課題 1 に関する内容の解説
2	単位課題 1 の作成・補足説明
3	単位課題 2 に関する内容の解説
4	単位課題 2 の作成・補足説明
5	単位課題 3 に関する内容の解説
6	単位課題 3 の作成・補足説明
7	単位課題 4 に関する内容の解説
8	単位課題 4 の作成・補足説明
[単位課題]	
単位課題 1	・認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切なことについて具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 2	・利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 3	・高齢者の生活支援に必要な技術とは何か、具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 4	・利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性について具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
介護と福祉C		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]			
油科 かすみ (介護職として実務経験5年)			
[授業の目的]			
- 介護福祉の現状を把握すること 介護福祉に関する問題や課題、ニーズを理解することが、介護福祉を改善していく上で必要である。現在の介護保険制度や介護施設の状況、介護職員の人材不足など、現状を把握することで、改善策や施策の提言が可能である。 - 介護福祉の理念や目的を考えること 介護福祉の理念や目的を考えることで、どのような介護福祉が求められているのかを明確にし、介護福祉の方向性を示すことができる。 - 介護福祉の課題を解決するための施策を考えること 介護福祉には、高齢化や人口減少などの社会的な変化に伴い、様々な課題がある。介護福祉の課題を解決するためには、介護職員の人材確保や研修の充実、介護保険制度の見直しなど、様々な施策が必要となる。介護福祉を考察することで、これらの施策の提言や改善策の模索が可能となる。 - 介護福祉の将来像を描くこと 介護福祉は、今後ますます重要な課題となっていくことが予想される。介護福祉の将来像を描くことで、どのような社会が求められているのかを明確にすることができる。また、介護福祉に必要な施策や取り組みを考えることで、将来に向けた具体的な施策を考えていくことで具体的な将来像を描くことができる。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
- 介護福祉の現状を把握することができる。 - 介護福祉の理念や目的を考えることができる。 - 介護福祉の課題を解決するための施策を考えることができる。 - 介護福祉の将来像を描くことができる。			
[成績評価の方法と基準]			
以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 - 考查点(100%) - 到達目標の修得状況を測るために、単位課題（課題提出）を実施する。			

〔使用テキスト・参考文献〕 なし
〔備考〕

〔授業計画(内容)〕	
(項目)	【印刷教材】
1	単位課題 1 に関する内容の解説
2	単位課題 1 の作成・補足説明
3	単位課題 2 に関する内容の解説
4	単位課題 2 の作成・補足説明
5	単位課題 3 に関する内容の解説
6	単位課題 3 の作成・補足説明
7	単位課題 4 に関する内容の解説
8	単位課題 4 の作成・補足説明
〔単位課題〕	
単位課題 1	・レクリエーション支援における基本姿勢に触れ、自分が提供する際に大切にしたいと考える内容を自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 2	・介護士としてのさまざまな技術の中で、参考書籍を記し特に技術を高めたい内容をまとめよ。ただし、自分の意見と考えも具体的に示すこと。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 3	・現代社会における高齢者福祉の課題を社会資源と結びつけ考察し、自身の考えをまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 4	・高齢者にみられる心理的特徴や抱える感情・不安を踏まえ、自身がどのように支援を行っていくのか考えを具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 介護と福祉D		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 須田 恵子 (看護職として実務経験20年)			
[授業の目的] ・QOLを高めるために介護職が必要なことを考えることで、個別に合わせたケアを提供し、快適な生活環境を整備することを理解することができる。 ・誤嚥性肺炎を予防し、利用者の満足感のある食事介助について考えることで、食べやすさや好みに合わせた食事の提供や食事介助の注意点、誤嚥性肺炎予防策について理解することができる。 ・安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助を学ぶことで、個別のニーズを理解し、利用者の健康状態の把握や、事前の準備が重要であることを理解できる。また、利用者とのコミュニケーションとプライバシーを守ることにも十分に理解することができる。 ・通所施設の特性について学ぶことで、高齢者や障害者などの社会的に孤立しがちな人々が通うことで、社会への参加が可能となることが十分に理解することができる。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・QOLを高めるために介護職が必要なことを考えることができる。 ・誤嚥性肺炎を予防し、利用者の満足感のある食事介助について理解することができる。 ・安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助について理解することができる。 ・通所施設の特性について学ぶことができる。			
[成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	単位課題 1 に関する内容の解説
2	単位課題 1 の作成・補足説明
3	単位課題 2 に関する内容の解説
4	単位課題 2 の作成・補足説明
5	単位課題 3 に関する内容の解説
6	単位課題 3 の作成・補足説明
7	単位課題 4 に関する内容の解説
8	単位課題 4 の作成・補足説明
[単位課題]	
単位課題 1	・ QOLを高めるために介護職が必要なことをまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 2	・ 誤嚥性肺炎を予防し、利用者の満足感のある食事介助とは何かをまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 3	・ 安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助とは何かをまとめなさい。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 4	・ 通所施設の特徴をまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)

授 業 計 画（シラバス）

【科目名】 介護と福祉E	【授業形態】 印刷教材	選択
【対象学科・学年・時期】 オンライン通信科 1年または2年 通年	【単位数・時間数】 4単位 180時間	
【担当教員および実務経験】 白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）		
【授業の目的】 ・利用者中心のケアを提供するために、介護福祉士が持つべき資質やスキル介護職員としての心得として、役割分担の理解、コミュニケーション能力の高さ、タスク管理能力の磨き、柔軟な対応力、患者や利用者の尊厳を尊重する姿勢を知る。 ・利用者中心のケアとは何かを考えることで、利用者の自己決定を尊重し、利用者が満足できるケアを提供することが理解できる。 ・燃え尽き症候群（バーンアウト）について理解し、解決策を検討することができる。 ・通所施設と他施設との連携の必要性和介護職としての役割について学ぶことで利用者の情報共有の必要性があり、介護職の役割は利用者の状況やケアプランなどの情報を適切に共有し、連携を円滑に進めることが必要であることを理解することができる。		
【授業の方法および概要】 到達目標に沿って学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
【授業の到達目標】 ・利用者中心のケアを提供するために、介護士が持つべき資質を考えることができる。 ・利用者中心のケアとは何か考えることができる。 ・燃え尽き症候群（バーンアウト）の解決策を提案することができる。 ・通所施設と他施設との連携の必要性和介護職としての役割について理解することができる。		
【成績評価の方法と基準】 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題（課題提出）を実施する。		
【使用テキスト・参考文献】 なし		
【備考】		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	単位課題 1 に関する内容の解説
2	単位課題 1 の作成・補足説明
3	単位課題 2 に関する内容の解説
4	単位課題 2 の作成・補足説明
5	単位課題 3 に関する内容の解説
6	単位課題 3 の作成・補足説明
7	単位課題 4 に関する内容の解説
8	単位課題 4 の作成・補足説明
[単位課題]	
単位課題 1	・利用者中心のケアを提供するために、介護士が持つべき資質やスキルについて自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 2	・利用者中心のケアとは何か具体的にまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 3	・福祉業界の抱える、燃え尽き症候群（バーンアウト）に対し、自分なりに原因分析を行い、解決策を提示しなさい。 (1,000 字以上・上限なし)
単位課題 4	・通所施設と他施設との連携の必要性和介護職としての役割についてまとめよ。 (1,000 字以上・上限なし)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
介護福祉士実務者研修Ⅰ		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		9単位 405時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
介護福祉士実務者研修の資格取得を目指し、介護福祉士に必要な人間の尊厳と自立、介護保険制度その他の社会の理解、介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程に関する知識を習得する。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って学習を進め、レポート課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・人間の尊厳と自立について説明できる。 ・介護保険制度その他の社会の理解について説明できる。 ・介護の基本について説明できる。 ・介護に必要なコミュニケーション技術について説明できる。 ・介護に必要な生活支援技術について説明できる。 ・介護過程について説明できる。 ・こころとからだのしくみについて説明できる。 ・発達と老化について説明できる。 ・認知症の人への支援について説明できる。 ・障害のある人への支援について説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、レポート提出（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 介護福祉士実務者研修テキスト5冊（中央法規出版） - 第1巻 人間と社会 第4版 - 第2巻 介護Ⅰ 第3版 - 第3巻 介護Ⅱ 第3版 - 第4巻 こころとからだのしくみ 第3版 - 第5巻 医療的ケア 第4版			

[備考]

[授業計画(内容)]

(項目)	【印刷教材】
1	人間の尊厳と自立
2	社会の理解Ⅰ 介護保険制度
3	社会の理解Ⅱ ①社会と生活のしくみ ②地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ③社会保険制度 ④障害者総合支援法 ⑤介護実践に関連する諸制度
4	介護の基本Ⅰ ①介護福祉士の役割と機能 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理
5	介護の基本Ⅱ ①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護従事者の安全
6	コミュニケーション技術 ①介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ②介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション
7	生活支援技術Ⅰ ①生活支援とICF ②ボディメカニクスの活用 ③生活支援技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ④環境整備、福祉用具活用等の視点
8	生活支援技術Ⅱ ①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具の活用
9	介護過程Ⅰ ①介護過程の基礎的知識

10	②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際
11	ころとからだのしくみⅠ ・介護に関連した身体の仕組みの基礎的な理解
12	ころとからだのしくみⅡ ①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点
13	発達と老化の理解Ⅰ ①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響
14	発達と老化の理解Ⅱ ①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多い症状・疾病等と留意点
15	認知症の理解Ⅰ ①認知症ケアの理念 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本
16	認知症の理解Ⅱ ①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人への支援の実際
17	障害の理解Ⅰ ①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本
18	障害の理解Ⅱ ①医学的側面から見た障害の理解 ②障害の特性に応じた支援の実際
[単位課題]	
単位課題 1	人間の尊厳と自立、社会の理解
単位課題 2	介護の基本
単位課題 3	コミュニケーション技術
単位課題 4	生活支援技術
単位課題 5	介護過程
単位課題 6	ころとからだのしくみ

単位課題 7	発達と老化の理解
単位課題 8	認知症の理解
単位課題 9	障害の理解

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
介護福祉士実務者研修Ⅱ	対面授業（登校）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	3単位 53時間	
[担当教員および実務経験]		
山田 允宣 (相談員業務7年)		
[授業の目的]		
介護福祉士実務者研修の資格取得を目指し、介護福祉士に必要なとなる介護過程に関する知識と技術を習得する。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って学習を進め、対面授業により、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・介護過程の展開の実際を説明できる。 ・介護技術を適切に行うことができる。 ・自らの介護技術を適切に評価することができる。		
[成績評価の方法と基準]		
以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 介護福祉士実務者研修テキスト5冊（中央法規出版） 第1巻 人間と社会 第4版 第2巻 介護Ⅰ 第3版 第3巻 介護Ⅱ 第3版 第4巻 こころとからだのしくみ 第3版 第5巻 医療的ケア 第4版		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（登校）】
1～4	介護過程の展開の実際①
5～8	介護過程の展開の実際②
9～12	介護過程の評価
13～16	介護技術①
17～20	介護技術②
21～26	介護技術③（医療的ケアを含む）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
【履】 高齢者福祉		印刷教材及び対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 (病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務)			
[授業の目的]			
高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者とその家族に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。			
[授業の到達目標]			
・ 高齢者（老い）の定義と特性について理解し説明できる。 ・ 少子高齢社会の現状と高齢者を取り巻く諸問題について理解し説明できる。 ・ 高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。 ・ 介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。 ・ 高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。 ・ 高齢者支援の方法について理解し説明できる。 ・ 高齢者福祉に関わる諸問題に関心を持ち、今後の課題について考えることができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕2 高齢者福祉 第2版』中央法規出版、2025年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	高齢者の定義と特性
2	少子高齢社会
3	高齢者の生活実態
4	高齢者を取り巻く社会環境
5	高齢者福祉の理念
6	高齢者福祉の発展①（明治以降から老人福祉法制定前まで）
7	高齢者福祉の発展②（老人福祉法制定から現在まで）
8	介護保険制度の概要
9	地域支援事業
10	介護保険サービスの体系
11	高齢者に対する関連諸制度①（高齢社会対策基本法、高齢社会対策大綱、老人福祉法）
12	高齢者に対する関連諸制度②（高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、バリアフリー法）
13	高齢者に対する関連諸制度③（高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援）
14	関係機関と専門職の役割
15	高齢者と家族に対する支援方法
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 高齢者福祉に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 我が国の人口の高齢化の特徴と高齢者を取り巻く諸課題を述べたうえで、今後どのような取り組みが必要となるのか、学んだ知識をいかしてあなたの考えを述べなさい。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 【履】 障害者福祉		[授業形態] 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的] 社会における諸課題を理解し課題解決に取り組むために、障害のある人を取り巻く現状を理解するとともに、関係する法律や制度について理解し考察する力を身につける。そのため、障害者福祉に関する基本から実際（現状）まで幅広く学習する。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。			
[授業の到達目標] ・ 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。 ・ 障害当事者を取り巻く現状やこれまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれを説明することができる。 ・ 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減・解決に向けた取り組みについて説明することができる。 ・ 障害者福祉に関する基本用語（障害とは、差別、偏見、自立、自律等）について自身の言葉で説明することができる。			
[成績評価の方法と基準] すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。			
[使用テキスト・参考文献] ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕 8 障害者福祉 第2版』中央法規出版、2025年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	障害概念と特性①（各種制度、難病、各種手帳）
2	障害概念と特性②（ICD、ICIDH、ICF、人と環境の相互作用）
3	障害者福祉の理念①（スティグマ、優生学）
4	障害者福祉の理念②（8つの原理、SRV、自立）
5	障害者福祉の歴史①（恤救規則、肢体不自由、救護法）
6	障害者福祉の歴史②（親の会、コロニー、完全参加と平等）
7	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題①（地域生活、就労、8050）
8	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題②（ソーシャルインクルージョン、コンフリクト、テクノロジー）
9	障害者に対する法制度①（障害者基本法、障害者総合支援法、障害等級）
10	障害者に対する法制度②（手帳、入院、発達障害者支援法）
11	障害者に対する法制度③（障害者福祉計画、合理的配慮、意思の表明）
12	障害者に対する法制度④（アクセシビリティ、共生社会、差別の禁止）
13	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①（各種機関の役割、トータルサポート、ライフステージ）
14	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②（各種専門職、多職種連携、利用計画）
15	障害者と家族等に対する支援の実態（ソーシャルワーク、エンパワーメント、コーディネーター）
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 障害者福祉に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 「障害とは何か？」及び「障害者福祉に関わる理念の変遷」についてまとめ、障害者を取り巻く現状やその抱える問題について考察してください。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 【履】 児童・家庭福祉	[授業形態] 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験] 星野 和幸		
[授業の目的] 人権保護や権利擁護といった権利保障の捉え方をふまえて、児童家庭福祉施策の史的展開を学習することを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
[授業の到達目標] ・ 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭施策の全体像を理解しその内容を説明することができる。 ・ 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、ソーシャルワークにつながる知識を体系的に説明することができる。 ・ 児童や保護者への支援の実際を理解しながら、児童福祉分野の専門職、専門機関の役割や機能を説明することができる。		
[成績評価の方法と基準] すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ15 児童・家庭福祉【第2版】』弘文堂、2025年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	子どもを取り巻く社会環境
2	子どもの権利保障
3	子ども家庭福祉の発展過程
4	子ども家庭福祉の基本的な法律
5	行政のしくみ
6	児童福祉施設
7	非行少年への対応
8	障害児への支援
9	子育て支援・児童健全育成
10	母子保健
11	ひとり親家庭
12	子どもの貧困対策
13	児童虐待防止
14	DV 防止
15	いじめ・不登校
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 児童・家庭福祉に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 日本における子ども虐待の現状とその対策について述べよ。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
【履】社会学と社会システム	印刷教材及び対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験]		
櫛野 友則		
[授業の目的]		
社会学の知見を通して、私たちの生きる社会について考察することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
[授業の到達目標]		
・社会学の概念や語句を正しく理解し、説明できる。 ・近代以降の家族の変容を理解し、今日の家族に生じている問題との関連性を説明できる。 ・現代社会に生じている問題を理解し、それに対するみずからの考えを他者に表現できる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	社会学の視点 (第1章 第1節・第2節)
2	社会システム (第2章 第1節)
3	集団と組織 (第2章 第2節)
4	人口 (第2章 第3節)
5	グローバリゼーション (第2章 第4節)
6	社会変動 (第2章 第5節)
7	地域 (第2章 第6節)
8	環境と災害 (第2章 第7節、第3章 第4節)
9	社会的格差 (第3章 第1節)
10	社会政策と社会問題 (第3章 第2節)
11	差別と偏見 (第3章 第3節)
12	家族とジェンダー (第4章 第1節)
13	健康と労働 (第4章 第2～3節)
14	世代 (第4章 第4節)
15	自己と他者 (第5章)
(コマ)	【対面授業 (遠隔)】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 社会学に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 前近代社会から近代社会へと変化するきっかけとなった出来事をまとめた上で、近代化によって社会がどのように変化したのかを多面的に論じてください。

授 業 計 画（シラバス）

【科目名】 【履】福祉心理学	【授業形態】 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
【対象学科・学年・時期】 オンライン通信科 1年または2年 通年	【単位数・時間数】 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
【担当教員および実務経験】 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)		
【授業の目的】 「福祉心理学」は、現代を生き抜く人々の、一人一人が求める「幸せの追求」をサポートし、「生活の質」の向上のために貢献する必要不可欠な学問であるため、一人一人の生命と生活を守るための取り組みを行いながら、社会全体にも働きかけていくことができるようになることを目的とする。		
【授業の方法および概要】 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
【授業の到達目標】 ・人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解し、説明できる。 ・人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。 ・日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。 ・心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解し、理解できる。 ・公認心理師に関する内容について理解し、説明できる。		
【成績評価の方法と基準】 すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
【使用テキスト・参考文献】 ・小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019年		
【備考】		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	心理学の歴史から未来を考える①（心の学の誕生とその歩み）
2	心理学の歴史から未来を考える②（現代の心理学から未来へ）
3	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか①「知る」
4	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか②「学び、覚える」
5	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか③「考え行う」
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①「行動」
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②「パーソナリティ」
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③「人間性」
9	ともに生きるための心理学の役割①（生活環境作りと心理学の役割）
10	ともに生きるための心理学の役割②（人の健康と心理学の役割）
11	ともに生きるための心理学の役割③（心理臨床の現場から）
12	「人生」を生きていくということ①（生涯発達）
13	「人生」を生きていくということ②（障害ももって生きるということ）
14	「人生」を生きていくということ③（思春期を生きる）
15	「人生」を生きていくということ④（老年期を生きる）
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 福祉心理学に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどうに行われるかについてまとめ、考察しなさい。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 【履】心理学概論A	[授業形態] 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験] 井畑 友佳		
[授業の目的] 心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学ぶことを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
[授業の到達目標] ・心理学を実学にとらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。 ・心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 行場次朗、大淵憲一著『ライブラリ 心理学の杜1 心理学概論』サイエンス社、2021年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	心理学とは (第1章)
2	心理学の歴史 (第2章)
3	感覚と知覚 (第3章)
4	注意と認知 (第4章)
5	学習と記憶 (第5章)
6	言語と思考 (第6章)
7	感情と動機づけの心理学 (第7章)
8	発達心理学 (第8章)
9	パーソナリティの心理学 (第9章)
10	社会心理学 (第10章)
11	臨床心理学 (第11章)
12	脳科学と心理学 (第12章)
13	認知工学・人口知能と心理学 (第13章)
14	行動経済学と心理学 (第14章)
15	健康と安全の心理学 (第15章)
(コマ)	【対面授業 (遠隔)】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 心理学概論に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 スキナーによる「道具的条件づけ (オペラント条件づけ)」とはどのようなものを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
【履】 心理学概論 B	印刷教材及び対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験]		
井畑 友佳		
[授業の目的]		
心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学ぶことを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
[授業の到達目標]		
・心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。 ・心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点 (25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 行場次朗、大淵憲一著『ライブラリ 心理学の杜1 心理学概論』サイエンス社、2021年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	心理学とは (第1章)
2	心理学の歴史 (第2章)
3	感覚と知覚 (第3章)
4	注意と認知 (第4章)
5	学習と記憶 (第5章)
6	言語と思考 (第6章)
7	感情と動機づけの心理学 (第7章)
8	発達心理学 (第8章)
9	パーソナリティの心理学 (第9章)
10	社会心理学 (第10章)
11	臨床心理学 (第11章)
12	脳科学と心理学 (第12章)
13	認知工学・人口知能と心理学 (第13章)
14	行動経済学と心理学 (第14章)
15	健康と安全の心理学 (第15章)
(コマ)	【対面授業 (遠隔)】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 心理学概論に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 人間の初期(乳幼児期)の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 【履】 発達心理学	[授業形態] 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験] 井畑 友佳		
[授業の目的] 「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのか？さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのか？この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことを目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。		
[授業の到達目標] ・ 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。 ・ 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。 ・ 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。 ・ 発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。		
[成績評価の方法と基準] すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学 改訂版一生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2024年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	発達するとはどういうことか①(序章、1章－2)
2	発達するとはどういうことか②(序章、1章－3～5)
3	ピアジェの発達理論(3章－1)
4	乳児期①：アタッチメントの発達(4章－3～4)
5	幼児期①：言葉と表象(5章－1～3)
6	幼児期②：自己の発達(6章－1～4)
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論(7章－1～2)
8	児童期①：子どもと学校(8章－1)
9	青年期の発達①：自己認知(9章－1～2)
10	青年期の発達②：友人関係(9章－3～4)
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達(10章－1～2)
12	成人期中期から後期①：世代性、職業、キャリア発達
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化
14	発達をつまづき①
15	振り返り
(コマ)	【対面授業(遠隔)】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 発達心理学に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 乳児期から幼児期の発達における「養育者－子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という2つの側面からまとめること。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 【履】 社会・集団・家族心理学A		[授業形態] 印刷教材及び対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 2単位 90時間 (うち遠隔による授業16時間)	
[担当教員および実務経験] 久住 雅史			
[授業の目的] できるだけ多くの興味深い研究を具体的に紹介しつつ、私たちの持つ心のメカニズムについて考える。そして人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題（レポート作成）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 対面授業（遠隔）は、東北福祉大学通信教育部（以下「大学」）のオンデマンドスクーリングによるものとする。			
[授業の到達目標] ・ 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解し、説明できる。 ・ 人の態度および行動に関わる諸要因について理解し、説明できる。 ・ 集団および文化が個人に及ぼす影響について理解し、説明できる。			
[成績評価の方法と基準] すべての対面授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、大学による評価を援用する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。			
[使用テキスト・参考文献] ・ 池上知子・遠藤由美著『グラフィック 社会心理学 第3版』サイエンス社、2024年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	社会心理学とは (序章)
2	対人認知 (第1章)
3	社会的推論①: 帰属 (第2章)
4	社会的推論②: バイアス (第2章)
5	態度 (第3章)
6	説得的コミュニケーション、態度と行動 (第3章)
7	感情 (第4章)
8	社会的自己 (第5章)
9	自己と他者 (第6章)
10	人間関係 (第7章)
11	集団と個人 (第8章)
12	愛他性と援助 (第9章)
13	攻撃性 (第10章)
14	偏見と差別 (第11章)
15	健康と幸福 (第12章)
(コマ)	【対面授業 (遠隔)】
1～4	東北福祉大学通信教育部スクーリング①
5～8	東北福祉大学通信教育部スクーリング②
[単位課題]	
単位課題 1	【客観式レポート】 社会・集団心理学に関わる基礎知識
単位課題 2	【論述式レポート】 あなたが関心をもっている社会問題をひとつ取り上げ、その原因と解決策について、社会心理学の観点から論じなさい。

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
G o o g l e 実習		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。			
[授業の目的]			
当校の授業で使用しているGoogle Workspace for Educationの使用方法および、企業でも使用されているGoogleのオフィスアプリの基本操作について学ぶ。			
[授業の方法および概要]			
・ Googleオフィスアプリについて、段階を踏み操作しながら習得する。			
[授業の到達目標]			
Google Workspace for Educationについて、以下の操作ができる。 ・ ログイン ・ Classroomの操作 ・ Gmailの送受信 ・ Googleドライブにおけるデータ操作 ・ オフィスアプリの操作(Document, Spreadsheet, Slide, Forms) ・ データの共有			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（実技試験）を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。			
[使用テキスト・参考文献]			
久住雅史『超入門・無料で使えるGoogleオフィスアプリ』C&R研究所、2024年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	Googleアカウントへのログイン・ログアウト、Google Classroom使い方
2	Gmailの送受信、Googleドライブ使い方
3	Google Document①(ページ設定、文字入力)
4	Google Document②(文字修飾、作表)
5	Google Document③(画像挿入、印刷、共有)
6	Google Spreadsheet①(文字入力、計算式入力)
7	Google Spreadsheet②(文字修飾、罫線)
8	Google Spreadsheet③(関数①)
9	Google Spreadsheet④(関数②、印刷)
10	Google Slide①(文字入力、文字修飾)
11	Google Slide②(画像挿入、プレゼンテーション)
12	Google Slide③(作品発表)
13	Google Forms①(アンケート作成①)
14	Google Forms②(アンケート作成②、相互解答)
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] Office実習	[授業形態] 対面授業（遠隔及び登校）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 2単位 30時間（15コマ） （うち登校による授業20時間）	
[担当教員および実務経験] 久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。		
[授業の目的] 企業・施設で一般的に使用されているMicrosoft Officeについて、Word、Excel、Powerpointの基本的な操作を習得する。		
[授業の方法および概要] ・ Microsoft Office (Word、Excel、Powerpoint) について、段階を踏み操作しながら習得する。		
[授業の到達目標] Microsoft Officeについて、以下の操作ができる。 ・ 日本語入力 ・ Wordによる文書作成 ・ Excelによる表作成と計算式の設定 ・ Powerpointによるプレゼンテーション用スライドの作成		
[成績評価の方法と基準] すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（実技試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] ・ 実教出版「30時間でマスター Office2016」、2016年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	Windows概要説明、日本語入力方法説明
2	タイピング練習
3	Word①(ページ設定、文字入力)
4	Excel①(文字入力、計算式入力)
5	Powerpoint①(文字入力、文字修飾)
	【対面授業（登校）】
6	Word②(文字修飾、作表)
7	Word③(画像挿入、印刷、共有)
8	Excel②(文字修飾、罫線)
9	Excel③(関数①)
10	Excel④(関数②、印刷)
11	Powerpoint②(画像挿入、プレゼンテーション)
12	Powerpoint③(課題作成)
13	Powerpoint④(課題発表)
14	科目修了試験対策
15	科目修了試験(実技試験)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
Word実習・基礎		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。			
[授業の目的]			
企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『Word』の操作を習得する。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 ・ Windowsの基本的操作方法について操作しながら習得する。 ・ Wordの操作方法について、段階を踏み、操作しながら習得する。			
[授業の到達目標]			
・ Windows の基本的な操作ができる。 ・ 文書データの読み込み・保存、印刷が適切にできる。 ・ 文書のページ設定（行数、1行あたりの文字数）が適切にできる。 ・ 文字入力（漢字変換）、文字および文字列の修飾が適切にできる。 ・ 作表、図表の挿入が適切にできる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題作成）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Word2016』実教出版、2016年			
[備考]			
授業で使うテキストは、Windows10、Office2016を使用しているが、OS及びOfficeのバージョンに左右されない内容で授業を進める。			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	Windowsの概要および操作の基本、タイピングの基礎
2	Wordの操作①（文字入力、漢字変換）
3	Wordの操作②（タイピング練習①：漢字変換、文節変換、英字入力）
4	Wordの操作③（タイピング練習②：入力と訂正、文字の挿入と削除）
5	これまでの復習（第1回～第4回）
6	Wordの操作④（書式設定）
7	Wordの操作⑤（文章の保存と読み込み）
8	Wordの操作⑥（印刷設定）
9	Wordの操作⑦（文書の複写・削除・移動）
10	これまでの復習（第5回～第8回）
11	Wordの操作⑧（右揃え・中央揃え、自動編集機能、箇条書き）
12	Wordの操作⑨（フォントの変更、下線、表の作成、均等割り付け、網かけ）
13	Wordの操作⑩（表の編集）
14	これまでの復習（第11回～第13回）
15	科目修了試験（課題作成）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
Word実習・応用	対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]		
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。		
[授業の目的]		
企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『Word』の操作を習得する。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 ・文書作成練習の実施により操作を習熟する。		
[授業の到達目標]		
・Windowsの基本的な操作ができる。 ・文書データの読み込み・保存、印刷が適切にできる。 ・文書のページ設定（行数、1行あたりの文字数）が適切にできる。 ・文字入力（漢字変換）、文字および文字列の修飾が適切にできる。 ・作表、図表の挿入が適切にできる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点(100%) ・到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題作成）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・実教出版編集部編『30時間でマスター Word2016』実教出版、2016年		
[備考]		
授業で使うテキストは、Windows10、Office2016を使用しているが、OS及びOfficeのバージョンに左右されない内容で授業を進める。		

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	Wordの操作⑪（資料のダウンロードと保存、画像の貼り付け）
2	これまでの復習（第4章の復習）
3	Wordの操作⑫（クリップアート）
4	Wordの操作⑬（ワードアート、図形、テキストボックス、テーマの設定）
5	Wordの操作⑭（スマートアート）
6	Wordの操作⑮（段組み、ドロップキャップ、ページ罫線）
7	これまでの復習（第5章の復習）
8	Wordの操作⑯（はがきの作成）
9	Wordの操作⑰（差し込み文書）
10	Wordの操作⑱（グラフの挿入）
11	これまでの復習（第6章の復習）
12	総まとめ（タイピング、文書作成）①
13	総まとめ（タイピング、文書作成）②
14	総まとめ（タイピング、文書作成）③
15	科目修了試験（課題作成）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ワープロ検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。			
[授業の目的]			
Word実習・基礎、応用の授業で学んだ知識をより確実にすることで、日本語ワープロ検定試験の任意級に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・日本語ワープロ検定試験の任意級に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Word2013』実教出版、2014年 ・ 日本情報処理検定協会編『日本語ワープロ検定試験 模擬問題集』日本情報処理検定協会、2025年			
[備考]			
日本語ワープロ検定の任意級を受験する。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	日本語ワープロ検定 過去問題①実施
2	日本語ワープロ検定 過去問題①解説・復習（課題提出）
3	日本語ワープロ検定 過去問題②実施
4	日本語ワープロ検定 過去問題②解説・復習（課題提出）
5	日本語ワープロ検定 過去問題③実施
6	日本語ワープロ検定 過去問題③解説・復習（課題提出）
7	日本語ワープロ検定 過去問題④実施
8	日本語ワープロ検定 過去問題④解説・復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
E x c e l 実習・基礎		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。			
[授業の目的]			
企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な表計算ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『E x c e l』の操作を習得する。			
[授業の方法および概要]			
・ E x c e l の操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。 ・ 作表練習の実施により操作を習熟する。			
[授業の到達目標]			
E x c e l について、以下の操作ができる。 ・ データの読み込み・保存(新規保存、上書き保存) ・ 文字の入力、文字属性の変更 ・ 表の作成 ・ セルの書式設定(表示形式の変更、罫線) ・ 計算式の入力(四則演算)、簡単な関数式の入力 ・ セル番地の絶対参照・ ・ グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ) ・ 印刷			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験(実技試験：関数や文字・表の修飾を含めた表の作成)を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Excel2016』実教出版、2016年			
[備考]			
・ 検定対策については「E x c e l 実習・応用」にて実施。			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	E x c e l の概要、画面説明、起動・終了方法
2	E x c e l の操作①（データ入力、オートフィル、セルの編集）
3	E x c e l の操作②（簡単な関数、簡単なグラフ作成、印刷）
4	E x c e l の操作③（絶対参照・相対参照、文字属性）
5	E x c e l の操作④（関数[数値計算関数、統計関数]の使用）
6	E x c e l の操作⑤（条件分岐[if関数]）
7	E x c e l の操作⑥（グラフの作成①棒グラフ、線グラフ、円グラフ）
8	E x c e l の操作⑦（グラフの作成②3Dグラフ、ドーナツグラフ他）
9	E x c e l の操作⑧（高度な関数[vlookup、rank、eq]）
10	E x c e l の操作⑨（データベース、フィルタ、検索・置換）
11	E x c e l の操作⑩（図やイラストの挿入、ワードアート）
12	E x c e l の操作⑪（文字列操作関数、シート間計算）
13	総合練習①
14	総合練習②
15	科目修了試験（実技試験）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
E x c e l 実習・応用	対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 30時間	
[担当教員および実務経験]		
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。		
[授業の目的]		
企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な表計算ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『E x c e l』操作に習熟し、検定合格を目指す。		
[授業の方法および概要]		
・ E x c e l の応用操作について検定問題を例とし、操作しながら習得する。 ・ 問題答練の実施により習熟をはかる。		
[授業の到達目標]		
E x c e l について、以下の操作ができる。 ・ 迅速な文字の入力、文字属性の変更 ・ 迅速な表の作成 ・ 迅速なセルの書式設定(表示形式の変更、罫線) ・ 高度な関数式の使用 ・ 高度なグラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ)		
[成績評価の方法と基準]		
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（実技試験：関数や文字・表の修飾を含めた表の作成）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Excel2016』実教出版、2016年 ・ 日本情報処理検定協会編『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』日本情報処理検定協会、2024年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	検定で使用する関数の使用方法①
2	検定で使用する関数の使用方法②
3	検定問題の解答方法
4	検定問題答練①
5	検定問題答練②
6	検定問題答練③
7	検定問題答練④
8	検定問題答練⑤
9	検定問題答練⑥
10	検定問題答練⑦
11	検定問題答練⑧
12	検定問題答練⑨
13	検定問題答練⑩
14	検定問題答練⑪
15	科目修了試験（実技試験）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
表計算検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史 情報処理サービス業において、システム開発における事務作業を担当。			
[授業の目的]			
Excel実習の授業で学んだ知識をより確実にすることで、情報処理技能検定試験表計算の任意級に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 情報処理技能検定試験 表計算の任意級に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Excel2016』実教出版、2016年 ・ 日本情報処理検定協会編『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』日本情報処理検定協会、2025年			
[備考]			
情報処理技能検定試験 表計算の任意級を受験する。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	情報処理技能検定 表計算 過去問題①実施
2	情報処理技能検定 表計算 過去問題①解説・復習（課題提出）
3	情報処理技能検定 表計算 過去問題②実施
4	情報処理技能検定 表計算 過去問題②解説・復習（課題提出）
5	情報処理技能検定 表計算 過去問題③実施
6	情報処理技能検定 表計算 過去問題③解説・復習（課題提出）
7	情報処理技能検定 表計算 過去問題④実施
8	情報処理技能検定 表計算 過去問題④解説・復習（課題提出）

授 業 計 画（シラバス）

【科目名】 Power point ・プレゼンテーション実習	【授業形態】 対面授業（遠隔）	選択
【対象学科・学年・時期】 オンライン通信科 1年または2年 通年	【単位数・時間数】 2単位 30時間（15コマ）	
【担当教員および実務経験】 久住 雅史 フリーライターとして、テレビ、ライブ、インターネットライブ等における、Powerpointによる資料の作成およびプレゼンテーション（発表）を担当。		
【授業の目的】 企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的なプレゼンテーションソフトウェアとしてマイクロソフト社の『Powerpoint』の操作を習得する。		
【授業の方法および概要】 ・Powerpointの操作方法についての習得。 ・課題の発表を行うことにより話し方とプレゼンテーション時の振る舞いを習得する。		
【授業の到達目標】 ・基本的なスライド作成が行える。（書式設定、文字・図表の挿入、スライドの編集） ・「読ませる」スライドではなく「一目で理解できる」スライドの作成ができる ・作成したスライドをフルスクリーンでプロジェクタに投影できる。 ・聴き手が理解しやすい話し方・内容で発表（プレゼンテーション）ができる。		
【成績評価の方法と基準】 すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題作成）を実施する。		
【使用テキスト・参考文献】 ・実教出版編集部編『30時間でマスター プレゼンテーション+Powerpoint2016』 実教出版、2016年		
【備考】		

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	プレゼンテーションとは何か
2	P o w e r P o i n t の使い方①
3	P o w e r P o i n t の使い方②
4	ナレーション原稿の作り方①
5	ナレーション原稿の作り方②
6	課題 1 「何かを勧める」作成作業①
7	課題 1 「何かを勧める」作成作業②
8	課題 1 「何かを勧める」作成作業③(録画提出)
9	課題 2 「行ってみたいところ(観光地や施設など)作成作業①
10	課題 2 「行ってみたいところ(観光地や施設など)作成作業②
11	課題 2 「行ってみたいところ(観光地や施設など)作成作業③(録画提出)
12	課題 3 「おすすめの家電」作成作業①(紹介商品はクジで決める)
13	課題 3 「おすすめの家電」作成作業②(録画提出)
14	期末課題作成①
15	期末課題作成②(録画提出、相互評価)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
ビジネスマナー	対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]		
久住 雅史		
[授業の目的]		
社会人として必要なルールとマナー、コミュニケーションスキルを身につける		
[授業の方法および概要]		
働くために必要な基本的マナー(時間の管理、あいさつ、言葉遣い、身なり、報告・連絡・相談、職務姿勢、電話応対など)を身につける。マナーやルールを守ることにより皆が気持ちよく過ごせることを理解し、「自分」よりも「相手」中心に考え、判断できるようにする。		
[授業の到達目標]		
・ 時間や約束を守ることができる ・ 場面に応じた適切なあいさつ、お礼、謝罪、お辞儀ができる ・ 基本的な敬語や接遇表現を理解し、話す(使う)ことができる ・ 相手や周囲に不快感を与えない身なり、言動ができる ・ ビジネス上必要な「ほう・れん・そう」がきちんとできる ・ 職場における出退勤や、職務姿勢等のマナーを理解し、実践できる ・ 電話や訪問のマナーを理解し、実践できる		
[成績評価の方法と基準]		
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 西出ひろ子『入社1年目ビジネスマナーの教科書』プレジデント社、2023年		
[備考]		

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	「身だしなみ」の基本
2	「コミュニケーション」の基本
3	「話し方・聞き方」の基本
4	「テレワーク」の基本
5	「電話応対」の基本
6	「敬語」の基本
7	「指示・報告・連絡・相談・確認」の基本
8	「来客応対」の基本
9	「他社訪問」の基本
10	「ビジネス文書」の基本
11	「ビジネスメール」の基本
12	「会食」の基本
13	「葬儀」の基本
14	「結婚式」「お見舞い」の基本
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
ビジネス実務	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数及び時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]		
星野 和幸		
[授業の目的]		
一般企業、福祉施設等で勤務する際に必要となる社会人としての意識、組織の構造、言葉遣い等のマナーや接遇、事務作業についての知識を学ぶ。知識習得の証明として、秘書技能検定3級の取得を目指す。		
[授業の方法および概要]		
到達目標をもとに、テキストを使って学習を進め、単位課題によって到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・ 企業団体等の組織に所属する場合の意識や役割を理解できる。 ・ 日常会話レベルで敬語を使用することができる。 ・ 企業団体での基本的な接遇、慶事弔事のマナーを説明できる。 ・ ビジネス文書について、例を見ながら作成することができる。 ・ 事務・ファイリング作業で使用する文具機器類の名称・用途を答えることができる。 ・ 郵便(特殊取扱含)等の通信手段について、利用方法や長短所を答えることができる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 藤井充子『この1冊で決める!!秘書検定2・3級合格教本』新星出版社、2017年		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	秘書の資質
2	職務知識
3	一般知識
4	職場と人間関係
5	敬語の種類
6	正しい敬語の使い方
7	接遇の表現
8	上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方
9	苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた
10	接遇の心構え、受付と取り次ぎ
11	受付と取り次ぎのケーススタディ
12	来客対応の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り）
13	電話対応(受け方かけ方)
14	慶事・弔事に関する業務とマナー、贈答のしきたり、上書きと水引の結び方
15	会議の基礎知識
16	会議の準備、会議直前から会議後までの業務
17	ビジネス文書の基礎知識
18	社内文書の作成
19	社外文書の作成
20	社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現
21	メモのとり方
22	グラフの書き方
23	文書の受信・発信、メール・FAX送受信、郵便物の発信、「秘」扱い文書
24	ファイリングの基礎知識、名刺の整理、資料の収集と整理
25	予定表の使い方、室内環境、オフィスレイアウト、オフィス機器・事務用品
26	秘書検定3級過去問題答練①
27	秘書検定3級過去問題答練②
28	秘書検定3級過去問題答練③
29	秘書検定3級過去問題答練④
30	秘書検定3級過去問題答練⑤
[単位課題]	
単位課題1	秘書の資質、職務知識、一般知識
単位課題2	マナー・接遇 職場と人間関係、敬語の種類、正しい敬語の使い方、接遇の表現 上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方 苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた 接遇の心構え、受付と取り次ぎ、受付と取り次ぎのケーススタディ

単位課題 3	来客対応の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り） 電話対応(受け方かけ方)、慶事・弔事に関する業務とマナー 贈答のしきたり、上書きと水引の結び方 技能① 会議の基礎知識、会議の準備、会議直前から会議後までの業務 ビジネス文書の基礎知識、社内文書の作成 社外文書の作成、社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現 メモのとり方、グラフの書き方
単位課題 4	技能② 文書の受信・発信、メール・FAX送受信、郵便物の発信 「秘」扱い文書、ファイリングの基礎知識、名刺の整理 資料の収集と整理、予定表の使い方、室内環境、オフィスレイアウト オフィス機器・事務用品

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
秘書技能検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		1単位 45時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸			
[授業の目的]			
ビジネス実務の授業で学んだ知識をより確実にすることで、秘書技能検定試験2級または3級に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 秘書技能検定試験2級または3級に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 藤井充子『この1冊で決める!!秘書検定2・3級合格教本』新星出版社、2017年			
・ 実務技能検定協会編『秘書検定 実問題集 2025年度版』早稲田教育出版、2025年			
[備考]			
秘書技能検定2級または3級を受験する。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	秘書技能検定 過去問題①実施
2	秘書技能検定 過去問題①解説・復習 (課題提出)
3	秘書技能検定 過去問題②実施
4	秘書技能検定 過去問題②解説・復習 (課題提出)
5	秘書技能検定 過去問題③実施
6	秘書技能検定 過去問題③解説・復習 (課題提出)
7	秘書技能検定 過去問題④実施
8	秘書技能検定 過去問題④解説・復習 (課題提出)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] コミュニケーション【動画】		[授業形態] 対面授業（遠隔）	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数（コマ数）] 2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験] 櫛野 友則			
[授業の目的] コミュニケーションは対人関係の基本であることから、講義や演習を通して、その知識や技術を学び、自分の考えを表現する方法、良好な人間関係の築き方などのスキルを身に付けることを目的とする。また、良好なコミュニケーションの環境について学び、福祉コミュニケーションの観点から、対象者の理解等を深め、実践できるようになることを目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いたコミュニケーションに関するオンデマンド動画を視聴し、その内容をもとに課題に取り組むことで、理解を促進する。			
[授業の到達目標] ・コミュニケーションの意義を踏まえ、集団における良好な人間関係の構築に努めることができる。 ・他者の発言を積極的に傾聴することができる。 ・自分自身が発言する際、相手の気持ちや場面に応じて発する言葉を選択することができる。 ・他者とのコミュニケーションにおいて、自分自身の長所・短所を分析することができる。			
[成績評価の方法と基準] すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	傾聴の基本①（アクティブリスニング）
2	傾聴の基本②（会話を広げる力）
3	傾聴の基本③（笑顔とうなずき）
4	傾聴の基本④（拡張話法）
5	聴き方と人間関係①（人間関係を意識した傾聴）
6	聴き方と人間関係②（価値観の共有）
7	聴き方と人間関係③（解決策の導き方）
8	聴き方と人間関係④（会話中に注意すべきこと）
9	聴き方と人間関係⑤（ジレンマ）
10	職場におけるコミュニケーション①（報連相）
11	職場におけるコミュニケーション②（リバースメンタリング）
12	話しやすい環境づくり
13	話し方の基本①（言葉を選んで自分のペースで話す、自分の話しやすい人と話すことで会話力を磨く、「やっぱり」という独り言）
14	話し方の基本②（相手にとってメリットのある話、「あなた」の多用、人を巻き込む方法）
15	話し方の基本③（相手との共通点を探す、一緒に笑う）
	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		選択
コミュニケーション【登校】		対面授業（登校）		
[対象学科・学年・時期]			[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年			2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]				
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）				
[授業の目的]				
コミュニケーションは対人関係の基本であることから、講義や演習を通して、その知識や技術を学び、自分の考えを表現する方法、良好な人間関係の築き方などのスキルを身に付けることを目的とする。また、良好なコミュニケーションの環境について学び、福祉コミュニケーションの観点から、対象者の理解等を深め、実践できるようになることを目的とする。				
[授業の方法および概要]				
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テスト等を行い、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
・コミュニケーションの意義を踏まえ、集団における良好な人間関係の構築に努めることができる。 ・他者の発言を積極的に傾聴することができる。 ・自分自身が発言する際、相手の気持ちや場面に応じて発する言葉を選択することができる。 ・他者とのコミュニケーションにおいて、自分自身の長所・短所を分析することができる。				
[成績評価の方法と基準]				
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（筆記試験）を実施する。				
[使用テキスト・参考文献]				
なし				
[備考]				

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（登校）】
1	傾聴の基本①（アクティブリスニング）
2	傾聴の基本②（会話を広げる力）
3	傾聴の基本③（笑顔とうなずき）
4	傾聴の基本④（拡張話法）
5	聴き方と人間関係①（人間関係を意識した傾聴）
6	聴き方と人間関係②（価値観の共有）
7	聴き方と人間関係③（解決策の導き方）
8	聴き方と人間関係④（会話中に注意すべきこと）
9	聴き方と人間関係⑤（ジレンマ）
10	職場におけるコミュニケーション①（報連相）
11	職場におけるコミュニケーション②（リバースメンタリング）
12	話しやすい環境づくり
13	話し方の基本①（言葉を選んで自分のペースで話す、自分の話しやすい人と話すことで会話力を磨く、「やっぱり」という独り言）
14	話し方の基本②（相手にとってメリットのある話、「あなた」の多用、人を巻き込む方法）
15	話し方の基本③（相手との共通点を探す、一緒に笑う）
	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
文章表現		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子			
[授業の目的]			
正しい表現を用いながら、文章を作成できる力を身につけることを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 文章表現で用いる文体・表記・用語などを適切に選択できる。			
・ 基本的な文章作成ができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・『簡単だけど、だれも教えてくれない77のテクニック 文章力の基本』日本工業出版社、2009年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第1章 短く書く
2	第2章 文の前半と後半が手をつなぐ
3	第3章 分かりやすく書く
4	第4章 簡潔に書く
5	第5章 的確に書く
6	第6章 どんな内容を、どう構成するか
7	第7章 「てにをは」を大切にする
8	第8章 読点をどこに打つか
9	第9章 表記と視覚効果にも心を配る
10	第10章 共感が得られるように書く
11	第11章 話し言葉の影響を避ける
[単位課題]	
単位課題1	第1章 短く書く 第2章 文の前半と後半が手をつなぐ 第3章 分かりやすく書く 第4章 関係に書く 第5章 的確に書く
単位課題2	第6章 どんな内容を、どう構成するか 第7章 「てにをは」を大切にする 第8章 読点をどこに打つか 第9章 表記と視覚効果にも心を配る 第10章 共感が得られるように書く 第11章 話し言葉の影響を避ける

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
商業簿記		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		8単位 360時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子			
[授業の目的]			
簿記の知識は企業の経理担当者だけではなく、ビジネスのあらゆる場面で必要とされている。財務諸表の内容を理解することにより、取引先企業の経営状況を把握できるようになることから安定した取引に活かすことが可能となる。 本講義では、企業の活動をルールに従って記録・計算・整理して利害関係者に対し有用な情報を提供する一連の手続きについて学習することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・簿記の基本的な仕組みを理解し、小規模株式会社における経営活動を記録し、経営成績や財政状態を明らかにできる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 15. 0』TAC出版、2025年 ・『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 15. 0』TAC出版、2025年			
[備考]			
希望者は日商簿記3級を受験できる。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	テーマ1 簿記の基礎
2	テーマ2 財務諸表と簿記の5要素日常の手続き
3	テーマ3 日常の手続き
4	テーマ4～10 商品売買と商品売買に関わる取引
5	テーマ11～14 その他の取引
6	テーマ15 試算表
7	テーマ16 決算の考え方
8	テーマ17～23 決算整理
9	テーマ24 決算整理後残高試算表
10	テーマ25 精算表
11	テーマ26 帳簿の締め切り(英米式決算)
12	テーマ27 損益計算書と貸借対照表
13	テーマ28～30 株式会社に関わる取引
14	テーマ31～32 伝票
15	科目修了試験
[単位課題]	
単位課題1	テーマ1 簿記の基礎 テーマ2 財務諸表と簿記の5要素日常の手続き テーマ3 日常の手続き
単位課題2	テーマ4～10 商品売買と商品売買に関わる取引
単位課題3	テーマ11～14 その他の取引
単位課題4	テーマ15 試算表
単位課題5	テーマ16 決算の考え方 テーマ17～23 決算整理
単位課題6	テーマ24 決算整理後残高試算表 テーマ25 精算表 テーマ26 帳簿の締め切り(英米式決算) テーマ27 損益計算書と貸借対照表
単位課題7	テーマ28～30 株式会社に関わる取引
単位課題8	テーマ31～32 伝票

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
商業簿記検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子			
[授業の目的]			
商業簿記の授業で学んだ知識をより確実にすることで、日商簿記検定試験3級に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、模擬問題演習に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・日商簿記検定試験3級に合格できる知識を十分にもつこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版、2025年			
・『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版、2025年			
[備考]			
商業簿記検定3級を受験する。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	日商簿記検定3級 過去問題①実施
2	日商簿記検定3級 過去問題①解説・復習（課題提出）
3	日商簿記検定3級 過去問題②実施
4	日商簿記検定3級 過去問題②解説・復習（課題提出）
5	日商簿記検定3級 過去問題③実施
6	日商簿記検定3級 過去問題③解説・復習（課題提出）
7	日商簿記検定3級 過去問題④実施
8	日商簿記検定3級 過去問題④解説・復習（課題提出）
9	日商簿記検定3級 過去問題⑤実施
10	日商簿記検定3級 過去問題⑤解説・復習（課題提出）
11	日商簿記検定3級 過去問題⑥実施
12	日商簿記検定3級 過去問題⑥解説・復習（課題提出）
13	日商簿記検定3級 過去問題⑦実施
14	日商簿記検定3級 過去問題⑦解説・復習（課題提出）
15	まとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 一般教養		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 真貝 綾子			
[授業の目的] 社会で働く上での必要最低限の一般常識である国語・数学・英語・社会・理科の基礎を学習することを目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・社会で働く上での必要最低限の一般常識の能力を身につけることができる。 ・就職活動の筆記試験を難なく解ける能力を身につけることができる。			
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] ・『ドリル式一般常識問題集2027年度版 図解&書き込み式』永岡書店			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	社会科学（政治・法律）テキストP. 8～23
2	社会科学（国際・経済）テキストP. 24～39
3	社会科学（社会・環境・科学）テキストP. 40～52
4	自然科学（数学：基本公式・方程式・空間図形）テキストP. 53～65
5	自然科学（数学：濃度・速さ・関数・場合の数・確率）テキストP. 66～77
6	自然科学（理科：物理・化学・生物・地学）テキストP. 78～90
7	人文科学（国語）テキストP. 92～107
8	人文科学（英語）テキストP. 108～123
9	人文科学（地理・歴史）テキストP. 124～139
10	人文科学（文化・スポーツ）テキストP. 140～159
11	時事問題①プリント
12	時事問題②プリント
[単位課題]	
単位課題 1	項目1～5 社会科学・自然科学のうち数学の練習問題より出題
単位課題 2	項目7～12 自然科学のうち理科・人文科学の練習問題と時事問題より出題

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
フィールドワークⅠ		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
学外にあるさまざまな施設などの中で、各自の興味のある活動先を選定し、実際に訪問することで、理解を深めることを目的とする。また、外部の関係者とのコミュニケーションを通して、コミュニケーションスキルの向上を図ることも目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、事前学習を行った上で、実際に活動先を訪問し、関係者とのコミュニケーションを通して理解を深める。その上で、成果報告の作成を通して、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
- 活動先の概要（設置目的、対象者、実施内容・機能など）を説明できる。 - 活動先のさまざまな関係者と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 - 自身の学びを成果報告としてまとめることができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
- 考查点(75%) - 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出：成果報告）を実施する。 - 平常点(25%) - 課題（事前・事後）を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 - 授業に積極的に参加し、技能向上を目指している。			
[使用テキスト・参考文献]			
なし			
[備考]			
活動先は、各自の希望により選定する。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	オリエンテーション・活動先の選定
2	事前学習・活動先への事前の挨拶
3～4	フィールドワーク実践Ⅰ－①（施設見学を含む）
5～6	フィールドワーク実践Ⅰ－②
7～8	フィールドワーク実践Ⅰ－③
9～10	フィールドワーク実践Ⅰ－④（中間振り返りを含む）
11～12	フィールドワーク実践Ⅰ－⑤
13～14	フィールドワーク実践Ⅰ－⑥
15	まとめ（成果報告）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
フィールドワークⅡ		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）			
[授業の目的]			
学外にあるさまざまな施設などの中で、各自の興味のある活動先を選定し、実際に訪問することで、理解を深めることを目的とする。また、外部の関係者とのコミュニケーションを通して、コミュニケーションスキルの向上を図ることも目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、事前学習を行った上で、実際に活動先を訪問し、関係者とのコミュニケーションを通して理解を深める。その上で、成果報告の作成を通して、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・活動先の概要（設置目的、対象者、実施内容・機能など）を説明できる。 ・活動先のさまざまな関係者と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・自身の学びを成果報告としてまとめることができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出：成果報告）を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 課題（事前・事後）を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、技能向上を目指している。			
[使用テキスト・参考文献]			
なし			
[備考]			
活動先は、各自の希望により選定する。 ただし、「フィールドワークⅠ」とは異なる活動先を選定する。			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	オリエンテーション・活動先の選定
2	事前学習・活動先への事前の挨拶
3～4	フィールドワーク実践Ⅱ－①（施設見学を含む）
5～6	フィールドワーク実践Ⅱ－②
7～8	フィールドワーク実践Ⅱ－③
9～10	フィールドワーク実践Ⅱ－④（中間振り返りを含む）
11～12	フィールドワーク実践Ⅱ－⑤
13～14	フィールドワーク実践Ⅱ－⑥
15	まとめ（成果報告）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
キャリアデザイン	対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 30時間（15コマ）	
[担当教員および実務経験]		
白倉 啓子 （高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）		
[授業の目的]		
自身のキャリアについて考えるきっかけづくりを目的とする。自己理解を深めたり、コミュニケーション力を向上させたり、興味のある職種について調べたりすることを通して、自分の力で将来設計（ライフプランニング）ができるようになることを目指す。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、補助教材プリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・自己理解ワークを通して、自身の長所と短所を明確化できる。 ・自身のキャリアについて、前向きに考えることができるようになる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。 ・業種や職種に関する知識を得ることで、自身の将来設計（ライフプランニング）を進めることができる。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔及び登校）】
1	オリエンテーション：「キャリアデザイン」とは
2	自己理解ワーク①「自身の価値観」
3	自己理解ワーク②「自身の強み（ストレングス）」
4	自己理解ワーク③「自身の将来設計（ライフプランニング）」
5	現代社会の理解①「世の中の動きはどう移り変わっている！？」
6	現代社会の理解②「世の中はこれからどうなる！？」
7	グループワーク①「コミュニケーション力」
8	グループワーク②「A I との付き合い方」
9	グループワーク③「社会で求められる人材」
10	グループワーク④「人間関係づくりで重要なこと」
11	業種・職種に関する基礎知識
12	業種・職種調べ①「あこがれの職業について」
13	業種・職種調べ②「あこがれを目標に！？」
14	まとめ（科目修了試験対策）
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
就職実務		対面授業（遠隔及び登校）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 30時間（15コマ） （うち登校による授業10時間）	
[担当教員および実務経験]			
久住 雅史			
[授業の目的]			
自己理解、職業理解を行い、働くことを理解する。 社会人に必要なマナー、一般常識、主体性を身につけ、就職に繋げる。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、動画やプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。また、模擬練習を行うことで、より実践的な力を養う。			
[授業の到達目標]			
・ 就職試験を受験する準備ができる。 ・ 希望の進路を決めることができる。 ・ 即戦力として働く知識、経験を得る。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての授業に出席した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
なし			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	オリエンテーション、卒業予定者求職申込書記入、キャリアビジョンの確認
2	就職活動の流れ、各種規定、雇用形態
3	社会人基礎力（コミュニケーション、スーツ講座）
4	ビジネスマナー（お辞儀、好印象な表情、名刺の受け取り方）
5	電話のかけ方、メールの送り方
6	会社紹介（説明会）動画視聴、質問のしかた
7	履歴書作成①
8	面接質問票・自己PR作成
9	訪問時のマナー、入退室練習
10	お礼状、封筒の書き方
	【対面授業（登校）】
11	模擬面接①
12	履歴書作成②
13	面接質問票・自己PR作成②
14	模擬面接②
15	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
医科医療事務・演習		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		10単位228時間（114コマ）	
[担当教員および実務経験]			
西潟 優希（保険医療機関にて診療報酬請求を担当）			
[授業の目的]			
診療に要した費用は、診療行為ごとにすべて厚生労働大臣によって定められた「点数表」を用いて算定するが、算定するためのルールを理解し身につけていくこと、そして算定した点数を正しくレセプトに記入することを学ぶ。 「初再診」「医学管理」「投薬」「在宅医療」「注射」「処置」「検査」「画像診断」「手術、麻酔」「リハビリ、精神科、放射線科」「入院」「点検」の知識を身に付けることを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 外来・入院共、項目ごとに正しく算定することができる。 ・ 外来・入院共、項目ごとの共通ルールを説明することができる。 ・ 外来・入院共、カルテからレセプトに正しく転記することができる。 ・ 医科医療事務管理士技能認定試験に合格することができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ (株) ソラスト テキスト2 診療報酬の算定（上） ・ (株) ソラスト テキスト3 診療報酬の算定（下） ・ (株) ソラスト テキスト4 トレーニングブック ・ (株) ソラスト 資料ブック ・ (株) ソラスト 薬価表 ・ (株) ソラスト 医科（管理士）過去問題集 新点版・新傾向 全2回 ・ 医学通信社 診療報酬点数早見表			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1～2	サポートブック作成、レセプトの書き方（初診料）【確認テスト①】
3～10	サポートブック作成、レセプトの書き方（再診料）
11～14	サポートブック作成、レセプトの書き方（医学管理）
15～29	サポートブック作成、レセプトの書き方（投薬）【確認テスト②】 トレーニングブック
30～36	サポートブック作成、レセプトの書き方（在宅医療） トレーニングブック
37～44	サポートブック作成、レセプトの書き方（注射）【確認テスト③】 トレーニングブック
45～56	サポートブック作成、レセプトの書き方（処置）【確認テスト④】 トレーニング
57	サポートブック作成、レセプトの書き方（リハビリテーション）
58～63	サポートブック作成、レセプトの書き方（検体検査）【確認テスト⑤】 トレーニングブック
64～72	サポートブック作成、レセプトの書き方（生体検査）【確認テスト⑥】 トレーニングブック
73, 74	サポートブック作成、レセプトの書き方（病理診断）【確認テスト⑦】 トレーニングブック
75～82	サポートブック作成、レセプトの書き方（画像診断）
83～89	サポートブック作成、レセプトの書き方（手術、輸血） トレーニングブック
90～95	サポートブック作成、レセプトの書き方（麻酔） トレーニングブック
96, 97	サポートブック作成、レセプトの書き方（精神、放射線）【確認テスト⑧】 トレーニングブック
98～105	サポートブック作成、レセプトの書き方（入院基本料、食事療養費）
106～	入院算定のルール
109	サポートブック作成、レセプトの書き方（外泊、再入院）
110～	トレーニングブック
112	確認テスト 確認テスト 解答解説
113, 114	点検①②③

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
医科医療事務・学科		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 40時間（20コマ）	
[担当教員および実務経験]			
駒田 彩加			
[授業の目的]			
病院における事務的な業務の中で、特に大きな比重を占める医療事務関連の業務を中心として学ぶことを目的とする。医療事務は診療収入の確保や診療業務プロセスの前後への大きなかかわりを持ち、社会保障制度・医療保険制度・保険請求事務などを含めて、幅広い知識の習得は極めて重要な要素である。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 医療保険制度や医事関連法規などの基本的な知識を習得し、病院医療サービスとのかかわりを理解する。 ・ 医療事務の業務内容を理解し、病院医療サービスへの医療事務支援の役割を理解する。 ・ 病院医療の概要、医療保険制度、医事関連法規、保険請求事務、窓口業務などの幅広い知識について、理解する。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ ソラスト テキスト1 医療保障制度 ・ ソラスト 医科試験問題集〔学科・実技〕 解答と解説			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	医療機関と薬局、医療保障制度
2	医療保険の種類
3	確認テスト①、被保険者証
4	保険給付
5	高額療養費
6	長期高額療養費
7	確認テスト②
8	医療事務の仕事
9	確認テスト③
10	公費負担医療
11	その他の制度
12	確認テスト④
13～19	練習問題
20	確認テスト⑤

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
医科医療事務-検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]			
西潟 優希 (保険医療機関で診療報酬請求事務を担当)			
[授業の目的]			
医科医療事務の授業で学んだ知識をより確実にすることで、医科医療事務管理士技能認定試験に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 医科医療事務管理士技能認定試験に合格できる知識を十分に持つこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだものに対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ (株) ソラスト テキスト2 診療報酬の算定（上） ・ (株) ソラスト テキスト3 診療報酬の算定（下） ・ (株) ソラスト テキスト4 トレーニングブック ・ (株) ソラスト 資料ブック ・ (株) ソラスト 薬価表 ・ (株) ソラスト 医科（管理士）過去問題集 新点版・新傾向 全2回 ・ 医学通信社 診療報酬点数早見表 ・ (株) ソラスト テキスト1 医療保障制度 ・ (株) ソラスト 医科試験問題集〔学科・実技〕解答と解説			
[備考]			
医科医療事務管理士技能認定試験を受験する。			

[授業計画(内容)]		
(項目)	【印刷教材】	
1	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習①
2	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習②
3	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習③
4	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習④
5	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習⑤
6	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習⑥
7	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習⑦
8	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習⑧
9	医科医療事務管理士技能認定試験	模擬問題演習・解説・復習⑨

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
医学知識	対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	2単位 40時間（20コマ）	
[担当教員および実務経験]		
須田 恵子（看護業務20年） 大塚 麻琴（看護業務18年）		
[授業の目的]		
病名や治療行為など、医学に関する専門知識を習得し、医療事務の算定に役立てることを目的とする。また、医師や看護師との他職種との連携が図れるようにする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・ 人体の仕組みを大まかに理解している。 ・ 各部位の名称を答えられる。 ・ 一般的な診断名についての治療方法が説明できる。 ・ カルテ用語を正確に把握し、カルテを読み解く力を身に付けている。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	導入、代表的な診療科と疾患
2	医療用語①
3	医療用語②
4	確認テスト
5	人体の仕組みと名称 筋組織の名称と分類
6	骨格系の名称と働き、骨格系に関わる疾患
7	消化器系の名称と働き①
8	消化器系の名称と働き②
9	確認テスト
10	消化器系の名称と働き、呼吸器系に関わる疾患
11	皮膚の構造、皮膚に関わる疾患
12	感覚器系の構造と働き、感覚器系に関わる疾患
13	泌尿器系の構造と働き、泌尿器系に関わる疾患
14	循環器系の構造と働き、循環器系に関わる疾患
15	確認テスト
15	生活習慣病について
17	発表
18	興味のある疾患について
19	発表
20	まとめ（科目修了試験対策）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
調剤事務管理士		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 46時間（23コマ）	
[担当教員および実務経験]			
西潟 優希 （保険医療機関にて診療報酬請求を担当）			
[授業の目的]			
診療に要した費用は、診療行為ごとにすべて厚生労働大臣によって定められた「点数表」を用いて算定するが、算定するためのルールを理解し身につけていくこと、そして算定した点数を正しくレセプトに記入することを学ぶ。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・項目ごとに正しく算定することができる。 ・項目ごとの共通ルールを説明することができる。 ・カルテからレセプトに正しく転記することができる。 ・調剤事務管理士技能認定試験に合格することができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ (株)ソラスト テキスト1 医療保障制度 ・ (株)ソラスト テキスト2 診療報酬の算定 ・ (株)ソラスト テキスト3 トレーニングブック ・ (株)ソラスト 資料ブック ・ (株)ソラスト 調剤 過去問題集 新点版・新傾向 全2回			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	医療機関と薬局の関係、調剤薬局での事務の仕事、医薬品の基礎知識
2	薬局の基礎知識
3	処方せんの基礎知識、薬剤の基礎知識、算定の基礎知識、算定に必要な用語
4	薬剤の基礎知識、薬剤料①
5	薬剤料②、
6	薬剤調製料
7	薬剤調製料の加算
8	特定保険医療材料料、調剤基本料、薬学管理料
9, 10	薬剤調製料の加算
11～16	レセプトの基礎知識、力価
17	確認テスト
18～21	トレーニングブック（問題演習）
22, 23	確認テスト

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
調剤事務検定対策		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
西潟 優希 (保険医療機関にて診療報酬請求を担当)			
[授業の目的]			
調剤事務管理士の授業で学んだ知識をより確実にすることで、調剤事務管理士試験に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、模擬問題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・調剤事務管理士試験に合格できる知識を十分に持つこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ (株)ソラスト テキスト1 医療保障制度 ・ (株)ソラスト テキスト2 診療報酬の算定 ・ (株)ソラスト テキスト3 トレーニングブック ・ (株)ソラスト 資料ブック ・ (株)ソラスト 調剤 過去問題集 新点版・新傾向 全2回			
[備考]			
調剤事務管理士試験を受験する			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【対面授業（遠隔）】
1	調剤事務管理士 〔学科問題①〕
2	調剤事務管理士 〔学科問題②〕
3	調剤事務管理士 〔練習問題〕
4	調剤事務管理士 模擬問題演習・解説・復習①
5	調剤事務管理士 模擬問題演習・解説・復習②
6	調剤事務管理士 〔苦手克服問題〕
7	調剤事務管理士 模擬問題演習・解説・復習③
8	調剤事務管理士 模擬問題演習・解説・復習④
9	調剤事務管理士 模擬問題演習・解説・復習⑤

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ドクターズクラーク		対面授業（遠隔）	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数（コマ数）]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 64時間（32コマ）	
[担当教員および実務経験]			
駒田 彩加			
[授業の目的]			
医師事務作業補助者に求められるスキルを習得するため、ビジネスマナー・メディカルマナー・電子カルテ・書類作成に必要な知識を理解し、書類作成ができるようになること及び医師事務作業補助技能認定試験の合格を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、オンデマンド動画視聴を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 医師事務作業補助者に必要な知識を身に付け、各種書類作成ができる。 ・ 医師事務作業補助者の役割について理解している。 ・ 医師事務作業補助技能認定試験に合格することができる。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての動画を視聴した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ ソラスト 医師事務作業補助者 養成講座 ・ ケアアンドコミュニケーション カルテ例題集2025年度版			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
(コマ)	【対面授業（遠隔）】
1	医師事務作業補助者とは
2	医師事務作業補助者の必要性
3	個人情報保護
4	電子カルテシステム
5	医療機関の安全管理
6	院内感染予防
7	医療知識
8	診療記録とは
9	入院診療計画書
10	診療情報提供書
11	退院時要約（退院時サマリー）
12	一般診断書
13	生命保険会社保険金（給付金）請求のための診断書（証明書）
14	傷害保険診断書（証明書）
15	死亡診断書（死体検案書）（死亡届）
16	出生証明書（出生届）
17	おむつ使用証明書
18	健康診断書
19	健康保険傷病手当金支給申請書
20	健康保険出産手当金支給申請書
21	健康保険（被保険者・家族）出産育児一時金支給申請書
22	医療要否意見書
23	自動車損害賠償責任保険診断書
24	休業補償給付支給請求書・休業給付支給請求書
25	主治医意見書
26	臨床検査個人票
27～29	医学入門
30	薬の基本知識
31, 32	科目修了試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] ドクターズクラーク-検定対策		[授業形態] 印刷教材		選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年			[単位数・時間数（コマ数）] 2単位 90時間	
[担当教員および実務経験] 駒田 彩加				
[授業の目的] ドクターズクラークの授業で学んだ知識をより確実にすることで、医師事務作業補助技能認定試験に合格することを目的とする。				
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標] ・ 医師事務作業補助技能認定試験に合格できる知識を十分に持つこと。				
[成績評価の方法と基準] すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。				
[使用テキスト・参考文献] ・ ソラスト 医師事務作業補助者 養成講座 ・ ケアアンドコミュニケーション カルテ例題集2025年度版				
[備考] 医師事務作業補助技能認定試験を受験する				

[授業計画(内容)]	
1	過去問題①
2	過去問題②
3	過去問題③
4	過去問題④
5	過去問題⑤

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		選択
登録販売者		印刷教材		
[対象学科・学年・時期]			[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年			6単位 270時間	
[担当教員および実務経験]				
山田 珠里				
[授業の目的]				
本講座を通して登録販売者として必要な身体の仕組み、医薬品成分の作用、効果効能、副作用や禁忌などを学ぶ。「主な医薬品とその作用」「人体の働きと医薬品」「医薬品に共通する特性と基本的な知識」についての知識を修得する。				
[授業の方法および概要]				
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
・ 医薬品の本質、効き目や安全性に影響を与える要因等について理解している。 ・ 購入者等から相談を受けた場合には医療機関を受診するなどの適切な助言をすることができる。 ・ 薬害の歴史を理解し、医薬品の本質等を踏まえた適切な販売等に努めることができる。 ・ 身体の構造と働き、薬の働く仕組み、副作用の症状等に関する基本的な知識を購入者への相談対応に活用できる。 ・ 薬事関係法規を遵守して医薬品を販売または授与することができるよう、一般用医薬品の販売または授与に関連する法令・制度の仕組みを理解している。				
[成績評価の方法と基準]				
すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（Web試験）を実施する。				
[使用テキスト・参考文献]				
・ 薬事日報社 登録販売者 試験テキスト 要点ブック付き				
[備考]				
希望者は登録販売者試験を受験できる（8月下旬頃）。				

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	第2章 人体の働きと医薬品
2	第2章 人体の働きと医薬品（練習問題）
3	第2章 人体の働きと医薬品（確認テスト）
4	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識
5	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識（練習問題）
6	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識（確認テスト）
7	第4章 薬事関係の法規・制度
8	第4章 薬事関係の法規・制度（練習問題）
9	第4章 薬事関係の法規・制度（確認テスト）
10	第5章 医薬品の適正使用・安全対策
11	第5章 医薬品の適正使用・安全対策（練習問題）
12	第5章 医薬品の適正使用・安全対策（確認テスト）
13	第3章 主な医薬品とその作用
14	第3章 主な医薬品とその作用（練習問題）
15	第3章 主な医薬品とその作用（確認テスト）
[単位課題]	
単位課題1	第2章 人体の働きと医薬品
単位課題2	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識
単位課題3	第4章 薬事関係の法規・制度
単位課題4	第5章 医薬品の適正使用・安全対策
単位課題5	第3章 主な医薬品とその作用
単位課題6	第1～5章すべての範囲

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		選択
登録販売者-試験対策		印刷教材		
[対象学科・学年・時期]			[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年			4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]				
山田 珠里				
[授業の目的]				
登録販売者の授業で学んだ知識をより確実にすることで、登録販売者試験に合格することを目的とする。				
[授業の方法および概要]				
到達目標に沿って、課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
・登録販売者試験に合格できる知識を十分に持つこと。				
[成績評価の方法と基準]				
すべての問題演習に取り組んだ者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。				
・ 考查点(100%)				
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。				
[使用テキスト・参考文献]				
・ 薬事日報社 登録販売者 試験テキスト 要点ブック付き				
[備考]				
登録販売者試験を受験する（8月下旬頃）。				

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1～4	登録販売者試験 模擬問題①実施
5～6	登録販売者試験 模擬問題①解説・復習（課題提出）
7～10	登録販売者試験 模擬問題②実施
11～12	登録販売者試験 模擬問題②解説・復習（課題提出）
13～16	登録販売者試験 模擬問題③実施
17～18	登録販売者試験 模擬問題③解説・復習（課題提出）
19～22	登録販売者試験 模擬問題④実施
23～24	登録販売者試験 模擬問題④解説・復習（課題提出）
25～28	登録販売者試験 模擬問題⑤実施
29～30	登録販売者試験 模擬問題⑤解説・復習（課題提出）
31～34	登録販売者試験 模擬問題⑥実施
35～36	登録販売者試験 模擬問題⑥解説・復習（課題提出）
37～40	登録販売者試験 模擬問題⑦実施
41～42	登録販売者試験 模擬問題⑦解説・復習（課題提出）
43～45	まとめ・最終確認

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ペット通信講座A【2単位コース】		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
真貝 綾子			
[授業の目的]			
選択したペット関連講座の内容を学習、知識を習得し、講座に付随する資格に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 講座付随の資格試験に合格できる知識を十分に持つこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題を提出した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（講座試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 全日本動物専門教育協会（SAE）通信講座各種			
[備考]			
各講座付随の資格試験を1月末までに受験する			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	各講座テキスト学習 フォローアップ問題集-基礎編 (講座によりテキスト前半とフォローアップ問題集前半)
2	フォローアップ問題集-応用編 (講座によりテキスト後半とフォローアップ問題集前後半)
[単位課題]	
単位課題 1	フォローアップ問題集-基礎編 (講座によりフォローアップ問題集前半)
単位課題 2	フォローアップ問題集-応用編 (講座によりフォローアップ問題集後半)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	選択
ペット通信講座A【4単位コース】	印刷教材	
[対象学科・学年・時期]	[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年	4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]		
真貝 綾子		
[授業の目的]		
選択したペット関連講座の内容を学習、知識を習得し、講座に付随する資格に合格することを目的とする。		
[授業の方法および概要]		
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標]		
・講座付随の資格試験に合格できる知識を十分に持つこと。		
[成績評価の方法と基準]		
すべての単位課題を提出した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。		
・ 考查点(100%)		
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（講座認定資格試験）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献]		
・ 全日本動物専門教育協会（SAE）通信講座各種		
[備考]		
各講座付随の認定資格試験を1月末日までに受験する		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	各講座テキスト学習 フォローアップ問題集-基礎編前半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の最初の1/4)
2	フォローアップ問題集-基礎編後半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の次の1/4) フォローアップ問題集-応用編前半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の次の1/4) フォローアップ問題集-応用編後半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の最後の1/4)
[単位課題]	
単位課題 1	フォローアップ問題集-基礎編前半 (講座によりフォローアップ問題集 最初の1/4)
単位課題 2	フォローアップ問題集-基礎編後半 (講座によりフォローアップ問題集 次の1/4)
単位課題 3	フォローアップ問題集-応用編前半 (講座によりフォローアップ問題集 次の1/4)
単位課題 4	フォローアップ問題集-応用編後半 (講座によりフォローアップ問題集 最後の1/4)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ペット通信講座B【2単位コース】		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		2単位 90時間	
[担当教員および実務経験]			
真貝 綾子			
[授業の目的]			
選択したペット関連講座の内容を学習、知識を習得し、講座に付随する資格に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 講座付随の資格試験に合格できる知識を十分に持つこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題を提出した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（講座試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ ・ 全日本動物専門教育協会（SAE）通信講座各種			
[備考]			
各講座付随の資格試験を1月末までに受験する			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	各講座テキスト学習 フォローアップ問題集-基礎編 (講座によりテキスト前半とフォローアップ問題集前半)
2	フォローアップ問題集-応用編 (講座によりテキスト後半とフォローアップ問題集前後半)
[単位課題]	
単位課題 1	フォローアップ問題集-基礎編 (講座によりフォローアップ問題集前半)
単位課題 2	フォローアップ問題集-応用編 (講座によりフォローアップ問題集後半)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	選択
ペット通信講座B【4単位コース】		印刷教材	
[対象学科・学年・時期]		[単位数・時間数]	
オンライン通信科 1年または2年 通年		4単位 180時間	
[担当教員および実務経験]			
真貝 綾子			
[授業の目的]			
選択したペット関連講座の内容を学習、知識を習得し、講座に付随する資格に合格することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 講座付随の資格試験に合格できる知識を十分に持つこと。			
[成績評価の方法と基準]			
すべての単位課題を提出した者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(100%)			
・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（講座認定資格試験）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 全日本動物専門教育協会（SAE）通信講座各種			
[備考]			
各講座付随の認定資格試験を1月末日までに受験する			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	各講座テキスト学習 フォローアップ問題集-基礎編前半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の最初の1/4)
2	フォローアップ問題集-基礎編後半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の次の1/4) フォローアップ問題集-応用編前半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の次の1/4) フォローアップ問題集-応用編後半 (講座によりテキストとフォローアップ問題集の最後の1/4)
[単位課題]	
単位課題 1	フォローアップ問題集-基礎編前半 (講座によりフォローアップ問題集 最初の1/4)
単位課題 2	フォローアップ問題集-基礎編後半 (講座によりフォローアップ問題集 次の1/4)
単位課題 3	フォローアップ問題集-応用編前半 (講座によりフォローアップ問題集 次の1/4)
単位課題 4	フォローアップ問題集-応用編後半 (講座によりフォローアップ問題集 最後の1/4)

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 自主研究Ⅰ	[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年	[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子		
[授業の目的] 学生各々が「好き」「学びたい」と感じているテーマをとことん追求して学ぶことを目的とする。そして、学びの成果を形に残すことで、他の学生や教員等へ報告・伝達する経験を通して自身の学びの価値を経験することも目的とする。		
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、自主学習・自主研究を積極的に進め、単位課題（成果報告）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。		
[授業の到達目標] ・自身の「好き」「学びたい」という気持ちを見つけることができる。 ・決めたテーマをとことん追求して学ぶ経験をできる。 ・工夫を凝らし、学びの成果を形に残すことができる。 ・他の学生や教員等で成果を報告・伝達することができる。		
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。		
[使用テキスト・参考文献] なし		
[備考] 自主研究Ⅱ・Ⅲ・Ⅳとの内容重複を避けることとする。		

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	「好き」「学びたい」という気持ちを見つける（テーマ設定）
2	成果報告のための手法を考える
3	自主研究テーマ1（単位課題1）
4	自主研究テーマ2（単位課題2）
5	自主研究テーマ3（単位課題3）
6	自主研究テーマ4（単位課題4）
7	科目修了試験（まとめ・課題提出）
[単位課題]	
単位課題1	自主研究テーマ1 成果報告
単位課題2	自主研究テーマ2 成果報告
単位課題3	自主研究テーマ3 成果報告
単位課題4	自主研究テーマ4 成果報告

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 自主研究Ⅱ		[授業形態] 印刷教材	選択
[対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年または2年 通年		[単位数・時間数] 4単位 180時間	
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子			
[授業の目的] 学生各々が「好き」「学びたい」と感じているテーマをとことん追求して学ぶことを目的とする。そして、学びの成果を形に残すことで、他の学生や教員等へ報告・伝達する経験を通して自身の学びの価値を経験することも目的とする。			
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、自主学習・自主研究を積極的に進め、単位課題（成果報告）に取り組み、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標] ・自身の「好き」「学びたい」という気持ちを見つけることができる。 ・決めたテーマをとことん追求して学ぶ経験をできる。 ・工夫を凝らし、学びの成果を形に残すことができる。 ・他の学生や教員等で成果を報告・伝達することができる。			
[成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験（課題提出）を実施する。			
[使用テキスト・参考文献] なし			
[備考] 自主研究Ⅰ・Ⅲ・Ⅳとの内容重複を避けることとする。			

[授業計画(内容)]	
(項目)	【印刷教材】
1	「好き」「学びたい」という気持ちを見つける（テーマ設定）
2	成果報告のための手法を考える
3	自主研究テーマ1（単位課題1）
4	自主研究テーマ2（単位課題2）
5	自主研究テーマ3（単位課題3）
6	自主研究テーマ4（単位課題4）
7	科目修了試験（まとめ・課題提出）
[単位課題]	
単位課題1	自主研究テーマ1 成果報告
単位課題2	自主研究テーマ2 成果報告
単位課題3	自主研究テーマ3 成果報告
単位課題4	自主研究テーマ4 成果報告